2014年度　センター試験　本試験　国語

第1問　評論

難易度	所要時間	出典	傾向と対策
★★★★☆	25分	中国の士大夫（したいふ）階級と日本の士族階級とを比較しながら、日本における漢文と士人意識の関連を論じた文章。	全体の文章量は2013年度と比べ減少。形式の変化はなし。全体としては、2013年度の小林秀雄の随想の難しさを考えると、当年度は少しやさしくなったといえるが、例年に比べれば十分難しい。問2を筆頭に、部分的理解だけでは通用しない設問が多くみられ、意味段落で内容を把握していく力が厳しく問われたといえる。 問1の漢字は近年だんだん難しくなっている。（ウ）などはかなり難しい。小説における単語の意味を問う設問にもいえることだが、日常生活であまり使われない言葉は、自分で本を読んで覚えるしかない。このような知識問題が苦手な場合、まずは頻出単語集などで応急処置をして、時間が許すならば古典作品や新書を手に取り、知識を増やそう。 問3は、抽象的な表現の具体化を求める説問であり、これも難しいといえる。 問6の（ⅱ）は、本文の構成に関する設問である。2010年度から2014年度まで、5年続けて出題された形式である。2016年度にも再び出題されているので、このタイプの設問は今後も出題されると思っておいたほうがよい。このような設問の有無に関わらず、今読んでいる箇所の全体における位置づけを考えつつ読み進めていくことは重要なので、訓練しておこう。 例えば、全体の構造を示す接続詞・文（受験英語におけるディスコースマーカーに相当するもの）に印をつけながら読んでいったり、意味的にひとまとまりの段落群（意味段落）を線で囲んだりするのも一策である。

本文解説

段落解説

Ⅰ　漢文学習を通して、ある特定の思考・感覚の型が形成された（第1～第4段落）

日本中で漢文の素読が広がっていたが、素読すなわち訓読が統一されていたということは、解釈が統一されていたということである。このことを踏まえれば、漢文が公的に認められた素養だったことも理解できるだろう。

このように広く学ばれていた漢文は、知的世界への入り口となっていた。となると、漢文を学ぶ過程で、ある特定の思考・感覚の型が形成されたこ

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

とに目を向けねばならない。といっても、それは、忠や孝に代表されるような儒教道徳の習得のことではない（それならどのようなものだろうか？）。

Ⅱ　（中国）それは、士人意識である（第５～第９段落）

（ある特定の思考・感覚の型とはどのようなものなのか）もう少し広く（Ⅱ中国に目を向けて）考えてみよう。中国古典文は、士大夫によって創始され、逆に、中国古典文を学ぶことは士大夫になることにつながった。これにより中国古典文の世界は拡大し、社会を支配する士大夫がこの世界を支えていた。（中国古典文で表された）思想にしろ、文学にしろ、平民のものではなく士大夫のものだったのだ。これを踏まえれば、古典文のリテラシーを問う科挙は、士大夫を再生産するとともに、士人意識をも再生産していくシステムだったといえる。

Ⅲ　（日本）漢文学習を通じて同様の士人意識が養われたが、異なる点もあった―ＷＨＯとＨＯＷ（第10～第17段落）

近世日本においても、漢文が普及したことで士人意識が養われた。漢文リテラシーの向上により古典文の世界に自らを馴染ませていくことは、日中同じだった。しかし、そこには違いもあった。誰が、どのようにして、という点に注意して再び日本の場合を考えてみよう。

（「誰」が？　というＷＨＯの問いに答える部分）日本の漢文学習の担い手は士族階級（武士）だった。

（「どのように？」というＨＯＷの問いに答える部分）実質は士大夫のようなものではあったが、士大夫とは異なって武士の本分はあくまで武であり、文武は相容れないものであるはずだった。しかしそれは、武を、「忠の現れ」だとみなすことで解決した。それによって文は武（忠の現れ）に支えられる、という考え方ができるようになったのだ。誇張していえば、近世後期の武士にとって、行政能力たる文に対して、武は忠義の心であり、精神の領域に属するものであった。そして寛政の改革以降は、ますます学問は武士たるのに不可欠なものとなっていった。

まとめ　漢文リテラシーを向上させていくことで、士人意識を形成させていく（第18～第20段落）

「修身・斉家・治国・平天下」という言葉に表れているように、（漢文で書かれ、寛政の改革で教化された）儒学は、統治意識へと連なっている。漢文で読み書きするということは、（士人意識で満ちた）知的世界に参入することであり、同時に、統治意識を抱くことでもあったのだ。

百字要旨

漢文を学ぶことは、士大夫的思考、感覚の型を身につけることだ。武によって立つ日本の武士も、武を忠義と見なし、文との対立を解消することでそれを達成した。士人意識は、統治への意識も含むものだった。（94字）

用語解説

津々浦々　いたるところの津や浦。あまねく全国。

通俗的　俗受けのするさま。一般向き。

巷（ちまた）　ところ。場所。世間。

民情　人民の生活の実情。民間の事情。人民の心情。民心。

編纂（へんさん）　諸種の材料を集め、またはそれに手を加え、書籍の内容をつくりあげ

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

ること。編集。

科挙（かきょ）　中国で行われた官僚登用試験。隋代に始まり、唐では秀才・進士・明経などの六科に分け、経典・詩文などを試験した。

エトス　人間の持続的な性格の面を意味する語。ある民族や社会集団にゆきわたっている道徳的な慣習・雰囲気。

標榜（ひょうぼう）　人の善行を称揚してその事実をしるし、里門に掲げて衆人に示すこと。主義・主張などを公然と掲げあらわすこと。

武勲　軍事上の功績。武功。

任用　役目を与えて働かせること。

あからさま　かくさず、ありのまま。あらわ。はっきり。

政談　その時の政治に関する談論。政治・裁判などの事件を題材にした講談・落語。

道理　物事のそうあるべきすじみち。ことわり。人の行うべき正しい道。道義。

設問解説

問1　1 ～ 5

正解　（ア）②　（イ）③　（ウ）④　（エ）②　（オ）③

難易度　★★★☆☆

所要時間　2分

設問パターン　知識・教養

解説

なかなか難解な単語が多く、特に（ア）や（ウ）で戸惑った人もいるかもしれない。だが、すべての漢字がわからずとも、消去法などを駆使しつつ解いていき、失点を防ぐようにしよう。

解答選択肢

（ア）棒読み　①窮乏　②痛棒（厳しい叱責）　③膨張　④無謀　⑤存亡（生きるか死ぬかの危機）

（イ）占める　①浅薄　②旋風　③占拠　④宣告　⑤潜在

（ウ）軍功　①拘泥（こだわる）　②首肯（賛成する、うなずく）　③巧拙（上手いか下手か）　④功罪　⑤生硬（表現等が未熟で硬い）

（エ）容易　①経緯　②簡易　③遺産　④偉大　⑤委細（詳細）

（オ）契機　①鶏口（小さな団体の長。※注）　②啓発　③契約　④恩恵　⑤警鐘（警戒を促す鐘、転じて警告すること）

※注　「寧ろ鶏口と為るも牛後と為る無かれ」という『史記』にある言葉からきている。大きな集団や組織の末端にいるより、小さくてもよいから長となって重んじられるほうがよいということ。

問2　6

正解　④

難易度　★★★☆☆

所要時間　3分

設問パターン　理由説明型＋内容説明型

解答範囲　Ⅱ（第5～第9段落）

解説

「『もう少し広く考えてみましょう』と作者が言うのはなぜか」、すなわち、「もう少し広く考え」ることにより作者はどんなことを言わんとしているのかという作者の意図を問う設問である。本文を見てみると、傍線部周辺の文は

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

左のような構造をとっている。（4は段落を表す）

4となると、その過程（日本で漢文が学ばれるようになった過程のこと）で、ある特定の思考や感覚の型が形成されていったことにも、注意を向ける必要があります。

←

5「もう少し広く考えてみましょう。」（傍線部）

←

6 7 8そもそも中国古典文は…

←

9こういう観点からすれば、古典詩文の能力を問う科挙は、…（中略）…士大夫の思考や感覚の型―とりあえずこれをエトスと呼ぶことにします―の継承をも保証するシステムだったことになります。

10日本の近世社会における漢文の普及もまた、士人的エトスもしくは士人意識―その中身については後で述べます―への志向を用意しました。

第10段落に注目してほしい。冒頭の、「日本の近世社会における漢文の普及もまた」という箇所の「また」という言葉から、第6～第8段落で述べられているのは、「士人的エトスもしくは士人意識…（中略）…への志向を用意し」た、ということだと予想できる。何について「もう少し広く考え」ているのかということについても、それは「中国古典文」であることは第6段落の書き出しなどを見ればわかる。作者の意図を問う漠然とした問いなので、以上のことをおさえたら選択肢の吟味に移ってしまっていいだろう。

消去法を用いつつ、このような根拠をきちんと拾ってある④が正解。

不正解の選択肢

① 思想と文学の共通点は、「ことばの世界は士大夫のものであった」ということが本文からいえるので前半部は間違いではないのだが、記述がややや限定的であるので違和感が残る。後半部に関しては、第三段落の最終文に「訓読を叩きこまれ、大量の漢籍に親しむことで、彼らは自身の知的世界を形成していったのです」とあるので、「漢籍が知的世界の基礎になった根拠」という言葉のある①を選んでしまった人もいるかもしれない。しかし、これはひっかけで、次の「となると、その過程で、ある特定の思考や感覚の型が形成されていったことにも、注意を向ける必要があります」という文にある「となると」という接続詞により別の議論に移ったことが示されており、これを選んではいけない。よって①は不適当。

② たしかに科挙は「学問の制度化」といえる。だが、作者の主張の本質は「士大夫的思考や感覚の型の形成」であり、科挙はこのことをいうために示された一例に過ぎない。

③ 「儒家だけでなく道家の思想も士大夫階級に受け入れられた」は誤りではないが、これが問題になっているわけではない。「知的世界が多様化」というのも本文にないことである。

⑤ 「民情への視線を分析」は誤りではないが、中国古典文と士大夫階級の意識の関係の一例にすぎない民情への視線だけを取り上げてしまっており、誤り。

③も⑤も、本文中で言及されている上、選択肢だけ見ると整合性もあり正しいように思えてしまうが、これらは、「作者の言わんとしていること」の本質ではない。見分けるポイントは、そこを省いて、本文全体の議論の展開にさ

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

しつかえるかどうかである。

問3 7

正解　②

難易度　★★★★★

所要時間　４分

設問パターン　内容説明型

解答範囲　Ⅱ（第５〜第９段落）

解説

この設問で問われているのは「中国では具体的にどのような展開があったのか」ということだが、傍線部の解釈をすれば、この答えもおのずと見えてくる。

ではまず、傍線部の中の「人」「ことば」「その世界」がここでは何を指しているのか考えよう。

「どんなことばについてもそうですが」という言葉が挿入されているので多少わかりにくくなっているが、傍線部は、その直前にある「そもそも中国古典文は、特定の地域の特定の階層の人々によって担われた書きことばとして始まりました。逆にいえば、その書きことばによって構成される世界に参入することが、すなわちその階層に属することになるわけです」という二文のほぼ言い換えである。

また、傍線部直後の「前漢から魏晋にかけて、その書きことばの世界は古典世界としてのシステムを整えていき、高度なリテラシー（読み書き能力）によって社会に地位をシめる階層が、その世界を支えました」という部分が、中国における「世界」の「拡大」の具体的な展開を示しているといえる。

以上のことから、

「人」＝「士大夫」

「ことば」＝「中国古典文」

「その世界」＝「士大夫により中国古典文で言い表される思考や感覚の型」

だということがわかる。

このように大体の検討をつけてから、選択肢を見ると、②⑤あたりが適していそうだとわかる。以下のような消去法を経て、②が正解となる。

不正解の選択肢

①　「上昇志向を捨てた人々」についての記述は本文にないし、士大夫を指しているはずの「人」が指し示す範囲が「上昇志向を捨てた人々」に限定されてしまっている。それに加えて、「ことばが人を得た」ことは読み取れるが、その逆については言及しておらず、「人」と「ことば」の相互作用についての説明がないため、誤り。

③　「人」と「ことば」の相互作用が説明されていない。また、「ことば」の内容は、「中国古典文で表される思考や感覚の型」全般につながるはずであるのに、「儒家の教え」だけに限定されてしまっているため、誤り。

④　民情の取入れという問題を論じているわけではないし、民情の取入れは「中国古典文のリテラシーを獲得した人々が自由に自らの志や情を詩にするように」なった結果でもない。本文では「統治のために民情を知るという視線」と書かれており、民情の取入れは行われていたとしても、円滑な統治という目的ありきのものだっただろうと考えられる。「科挙制度のもとで確立した身分秩序が流動化」というのも本文に書かれていないことである。

⑤　「士大夫が堅持してきた書きことばの規範が大衆化」「統治するシステム全

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

体の変容」という記述は、中国古典文の世界は士大夫のものであったという本文の主旨に反する。

問４ 8

正解 ④

難易度 ★★★★★

所要時間 ４分

設問パターン 内容説明型

解答範囲 Ⅲ（第10～第17段落）

解説

問われているのは「それによって近世後期の武士はどういうことが可能になったのか」ということだが、まずは傍線部の理解から始めよう。第13段落の最後の三文に注目する。「武士は武から外れることは許されません。抜かなくても刀は要るのが太平の武士です。文と武、それは越えがたい対立のように見えます。」とある。端的に言えば、刀を武勇ではなく忠義の象徴としたことで可能になったこととはこうした文武の対立の解消である。

さてどのように解消されたのか考えよう。第17段落に注目する。４文目に「『学問吟味』や『素読吟味』では褒美が下された」とあり、５文目には「武勲ならぬ文勲です」とある。つまり文は武と同様に武士のアイデンティティになったということである。これを踏まえて傍線部の吟味に移ろう。一致する正解は④。

不正解の選択肢

① 日本独自の文と武に関する理念が生まれたというのは間違っていない。ただし、「それによって近世後期の武士はどういうことが可能になったのか」という問いに対する答えはあくまで「武に支えられてこその文であるという意識」（第14段落）、「平時における自己確認」（第14段落）を中心にしていなくてはならない。日本の文と武の文化の独自性が問題になっているわけではないので誤り。士大夫が武士の理想として考えられていたという記述もない。

② 刀は「漢文学習によって得られた吏僚としての資格」を「象徴」するものではない。そうではなくて、刀を忠義の精神の現れとみなすことで、刀に対する価値づけは変容し、「漢文学習によって得られた吏僚としての資格」などの「文」を支える根拠となったのである。

③ 本来刀は忠義の精神を意味していたのではない。また「漢文学習によって獲得した知力」という表現も、漢文学習で身につくのは「ある特定の思考や感覚の型」（第４段落）すなわち「士大夫の思考や感覚の型」（第９段落）だというのが本文の要旨であり、この言い方には違和感が残る。

⑤ 「出世のための学問を重んじる風潮に流されず」は誤りで、むしろ漢学は「士族が身を立てるために必須の要件」（第17段落）であると広く見なされていた。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

問5 9

正解　③

難易度　★★★☆☆

所要時間　3分

設問パターン　内容説明型

解答範囲　Ⅲ（第10～第17段落）

解説

「道理と天下を背負う」とはどういうことか考えよう。傍線部直前に「道理と天下を語ることば」とある。漢文が道理と天下を語ることばであったとはどういうことか、第18段落に注目する。一・二文目に「儒学はまず修身に始まるわけですが、それが治国・平天下に連なっていることも、確認しておきましょう。」とある。つまり、学生が学ぶ儒学をはじめ漢文には国を治める道理が書かれていたということである。漢文を学ぶことは統治者としての意識を得ることであった。以上を踏まえたら、選択肢の吟味に移ってしまおう。この内容と合致する正解は③。

不正解の選択肢

①「統治への意識」であるので、「幕府の教化政策を推進する者に求められる技能」では限定的である。「エリートとしての内面性」も「統治への意識」の言い換えとしては不適当である。

②「幕吏として登用されるために不可欠な資格を獲得するようになった」とは本文で書かれておらず、不適当である。③と比較し、③が確実に正しそうなので、②は消去。

④「士人としての生き方を超えた、人としての生き方」に関しては本文では言及されていない。あくまで士大夫的意識について述べられている。

⑤「道理を背負う」の説明と「中国士人の伝統的な思考法に感化」という書き方は不適当である。また、「天命として引き受ける」という記述も本文にないため、この選択肢は誤り。

問6　(i) 10　(ii) 11

正解　(i) ②　(ii) ①

難易度　★★★★★

所要時間　4分

設問パターン　表現・構成

解説と不正解の選択肢

(i)

②が正しそうである。「正直に言えば」という表現が段落の関係を示すかどうかに疑問を感じるかもしれないが、前の段落を補足していると捉えれば、そのようにいってもよいだろう。正解は②。

①　第5・第9段落は「読み手に問いかけ」ているわけではない。

③　第1・第3・第7段落は「次の話題に移」っているわけではなく、「このように」という言葉に代表されるように前の段落を引き継いでいるものであり、誤り。

④　「文武両道なるものは」が「学術的」「観念的」といえるかは疑問が残る。

(ii)

前述した本文解説を参照してほしい。第1～第4段落で、漢文学習を通して、ある特定の思考・感覚の型が形成されたことが述べられ、第5～第9段落（第10段落）までで、中国に目を転じて、「ある特定の思考・感覚の型」すなわち士人意識について語られ、第10～第17段落で、日本の場合に話を戻し、

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

中国の場合との相違点などが語られていることがわかる。したがって、正解は①。

② たしかに第3段落の冒頭の接続詞は「さて」という、話題の転換に用いられる接続詞ではあるが、「こうした歴史的環境」といった言葉も見られることから、第2・第3段落で論理の大きな切れ目があるとはいえない。第18段落に「もう一つ」という添加（累加）を示す言葉があり、「第17～第20段落が補足部分という構成」というのも疑わしいとわかる。第17～第20段落までの内容を考えても、「統治への意識」についてはそれまでで言及されていないことなので、補足部分とはいえない。よって誤り。

③ 問題となっている第10・第11段落に注目してみると、「もう一度、近世日本に戻って考えてみましょう」とあることから、これ以降を「詳細」ということには疑問が残る。内容を考えてみても、近世日本以外の話から近世日本の話へと移っており、同一の話題とはいえないだろう。よってこれは誤り。

④ 第12～第19段落と第20段落が「転」と「結」になっている、言い換えれば第19・第20段落の間に話の流れの断絶（「転」から「結」への変化）があり、第20段落は文章全体の結論部分となっている、と述べられているが、それは無理がある。第20段落の「しかし」は、第19段落の、少し譲歩した注釈的言明に対する「しかし」であり、論の展開を大きく変えるものではないし、第20段落が結論を述べているということもない。よって誤り。

（制作：大久保らな、井小路馨）

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

2014年度　センター試験　本試験　国語

第2問　小説

難易度	所要時間	出典	傾向と対策
★★★☆☆	20分	岡本かの子の小説『快走』の全文から出題された。戦争に向かう鬱屈した雰囲気の中、走る喜びを見出し生きている実感を見出し始めた道子と、彼女の走る姿を目にしたことにより、ともに新鮮な喜びを味わう両親を描いた文章である。全体の文章量は2013年度より1000字あまり増加し非常に長い文章だが、内容は難しいものではなく、その長さに反して読みやすい。全体としてはやさしくなったといえる。	やさしくなったものの、問6のように細かな内容の検索や照合を求めるといった手間取る設問もあるので、時間の余裕はそれほどないかもしれない。 問1の語彙問題は例年に比べ、やさしい。 問2は、正解を⑤と間違えやすい。それ以外はさほど難しいところはない。ただ、傍線部周辺にある「すると急に屈托して来て」という表現も読解の重要なカギとなるはずだが、「屈托する」という言葉の意味を知っている受験生は少ないだろう。重要なのは、「屈託のない笑顔」というよく聞く表現を思い出したり、「屈折」「鬱屈」といった屈の字が共通する言葉から、「憂鬱」「嫌気がさす」といったニュアンスをほんやりイメージしたりして、アタリをつける能力である。 問3も、道子の心情に関する表現を一つずつ解釈していけば、正答にたどり着けるが、誤答だとすぐわかる選択肢が少なく苦労してしまうかもしれない。消去法も用いつつ、精密な読解を心がけよう。 問4は、問題文を見てから、「あれ、二人はどんな会話をしていたっけ」と本文を読み返すのは少し効率が悪い。あまり出題されない問いではあるが、こういった検索型（本文全体から該当箇所を探し出すタイプ）の設問に気づくために、本文を読む前に問題文を一読しておくことをお勧めする。検索型の設問に限らず、意味段落が問われる論の構成の設問なども、事前にその存在に気づけていると時間を短縮できる。 問6のような表現の特徴を問う設問は、消去法で解いていくと解きやすいだろう。

本文解説

段落解説

I　窮屈な生活の中で、走る喜びに目覚める道子（1～55行目）

主人公の道子は、兄陸郎の分の着物を縫っている。「国策」という語の（注）とあわせて考えると、時代はどうやら戦時中のようで、そのためか道子は陸

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

郎になるべく普段は和服で済ますようにと注意している。しかし陸郎の方は彼女の気ぜわしそうな様子を笑い飛ばすばかりで、さっさと歩いて行ってしまう。そんな陸郎につられたように、道子も縫い物をやめ、ふと表へ出た。

沈みかけた夕陽を追って「光りを求めて進むように」道子はついに河川敷まで行き、落日を見ながら感慨にふける。女学校を卒業してからというもの、こんな風にゆっくり夕景色を眺めることもしないで、始終あわただしく追い詰められ、委縮したような生活を送ってきたと、彼女は不満を抱く。

すっかり夜に包まれた堤防を歩いていた道子は、誰も見ていないという安心も手伝って、思い切り身体を動かしたいという衝動のまま、堤防の上を走り出した。「ほんとうに潑剌と活きている感じがする。女学校にいた頃はこれほど感じなかったのに。毎日窮屈な仕事に圧えつけられて暮していると、こんな駈足ぐらいでもこうまで活きている感じが珍らしく感じられるものか。」そして道子は、毎日走ったらどんなに楽しいだろうという欲望にとらえられる。邪魔をされるのは嫌だったし、何より興奮を独り占めするために、家族には黙っておくことにした。翌日もこっそり走りに行こうとした道子は、母に止められたものの、銭湯に行くという穏当な口実を使って抜け出すことに成功する。

堤防に着き、着物をさっと脱いで運動着になり、昨日のようにまた走り出す。月明かりに照らされて走るという状況のためか、道子は、生き生きとしているがほかの人とは離れた寂しく厳粛な世界に一人生きているのだ、という悲壮な気持ちになる。そのあと銭湯に行き、そこでお湯につかってはじめて、もとの人間界に立ち戻ったような気分になる。自分独自の生き方を見つけた興奮に、道子はわくわくして肌をこすった。

Ⅱ　両親もついに道子が走りに行っているのを知るが、咎めることはなかった（57～119行目）

連日銭湯に行くといっては堤防に走りに行っていた道子だったが、お湯につかるだけにしては時間がかかりすぎていると母は不審がる。案じた母は陸郎にあとをつけさせたり、昼間一緒に行くようにさせたりしたが、疑惑は晴れない。このことを父親に相談したところ、こっそり道子宛の手紙を開封して真相を確かめようということになった。そしてついに道子は走りに出ているのだということを知り、一度は叱ろうとする。だが、自分も会社の業務に忙殺される毎日を送っており、鬱憤を晴らしたくなる道子の気持ちも理解できる、という父親の言葉をきっかけに、道子の勇姿を見に行こうじゃないかと笑いながら算段するに至る。二人は明日の月夜が待ち遠しかった。

Ⅲ　走る喜びが夫と妻にももたらされる（121～145行目）

そんな二人の算段など何も知らない道子は、父親が早く帰ってきたことで、また母と一緒に銭湯へ行かなければならなくなるかもしれないと気がかりだったが、予想に反してうまく抜け出せたことに安堵する。

道子は待ちかねたように河原へ駆けてゆき、堤防の上を弾丸のように疾走しはじめる。そんな道子の姿を見ようと、こちらも家から走ってきた夫と妻は、堤防の上に娘の飛ぶように走る姿をとらえた。夫婦二人にとっても、月光の下、寒風を切って走ったことが近来にない喜びだった。当初の目的だった娘のことも忘れて、二人は大声で笑いあった。

百字要旨

戦時体制下の窮屈な生活から逃れるように、道子は夜に一人堤防を走るこ

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

とに喜びを見出した。一度は叱責しようとした父母も、娘を追いかけて走っているうちに、いつしか近来にない喜びを感じ始め大声で笑い合った。（99字）

用語解説

新調　新しくととのえること。特に衣服などにいう。新しい調子。

屈托（屈託）　一つの事ばかり気にかかって心配すること。くよくよすること。退屈や疲労などで精気を失っていること。

まばら　間があらく透いていること。密でないこと。時間をおいて、まれに起きるさま。

始終　はじめとおわり。始めから終わりまで。最後。結末。将来。（副詞的に用いて）たえず。常に。結局。ついには。

勢い　（副詞として用いる場合）その時のなりゆきで。その結果として当然。

端折る　和服の裾などを折りかかげて帯に挟む。おはしょりにする。はぶいて短く縮める。省略する。簡単にする。

潑剌（溌剌）　魚が元気よくとびはねるさま。元気のよいさま。生き生きしているさま。

悲壮　あわれにまた勇ましいこと。悲しい結末が予想されるにもかかわらず、雄々しい意気込みのあること。

厳粛　おごそかで、心が引きしまるさま。厳格で静粛なこと。それを真剣に受け取らなければならないさま。厳として動かしがたいこと。

急き立てる　催促していそがせる。督促する。

疾駆　車馬を速く走らせること。速く走ること。

頓狂　あわてて間が抜けていること。だしぬけで調子はずれなこと。

知るよしもない（知る由もない）　知るための手がかりも方法もない。

弱る　からだが弱くなる。また、勢力や気力が衰える。肉・魚などが腐る。こまる。困却する。閉口する。

望む　遠くからながめやる。願う。欲する。期待する。仰ぐ。慕う。

設問解説

問1　12 ～ 14

正解　（ア）⑤　（イ）④　（ウ）①

難易度　★★★★☆

所要時間　2分

設問パターン　知識・教養

解説

（ア）

「刻々に」は「時間を追って・時間がたつのにつれて」という意味の言葉である。最近では「刻々と」ということのほうが多い。これと一致する正解は⑤。

（イ）

「腰を折る」は「かがむ」という意味のほかに、「中途で妨げる。勢いをくじく」という慣用表現としても使われる。これと一致するの正解は④。ちなみに①の「下手に出る」は「相手に対して、へりくだった態度をとる」という意味。

（ウ）

「われ知らず」は「自分でそれと意識せずに」という意味なので、これに一番近い正解は①。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

問2　15

正解　③

難易度　★★★★☆

所要時間　4分

設問パターン　内容説明型＋心情説明型

解答範囲　Ⅰ（1～55行目）

解説

傍線部の前にある、「顔も上げないで」「忙がしそうに縫い進」んでいる道子の様子（5行目）と、そんな道子に対して「ははははは、一人で忙がしがってら、だがね、断って置くが、銀ぶらなぞに出かけるとき、俺は和服なんか着ないよ」（8行目）と道子が縫い物に精を出す様子を笑い飛ばし、いくら縫ったってそんな着物は着やしないという陸郎のセリフ。これらの描写から、国策に従って縫い物に精を出す道子、そのせわしげな様子を笑い飛ばす陸郎、という構図が見えてくる。また傍線部のあとになると、10行目に「大きな脊伸びをした」という表現があり、陸郎とのやり取りを経て道子の気が緩み、集中力が切れている様子が描かれている。以上を踏まえると、道子は、縫い物にせわしげに精を出していたが、兄にその様子を笑い飛ばされたのをきっかけに、気が緩んだのだということがわかる。これに合致するものを選ぶと、正解は③。

また、選択肢の吟味に直接関わるわけではないが、道子自身も日々の生活の忙しさに肯定的であるわけではないということも理解しておこう。18行目にある「ほーっと大きな吐息をまたついて」という、傍線部とほぼ同じ表現に導かれてその周辺を見ると、16・17行目に「あわただしい、始終追いつめられて、縮こまった生活ばかりして来たという感じが道子を不満にした」という記述があり、ここを見ると道子自身もあわただしい日々を不満に思っていることがわかる。そして、29行目の「毎日窮屈な仕事に圧えつけられて暮している」という表現も同様のことを述べているといえるだろう。道子は戦争に向かう重苦しい雰囲気の中の日々の仕事を圧迫感とともに受け止めており、忙しい生活に不満を抱いているのである。

不正解の選択肢

① 「強いられている」「孤独を感じている」という描写は本文にない。

② ほーっと吐息をつくのは「恥ずかしさ」を感じている動作としては不適当。

④ 「正しいものであると信じてきた」とあるが、本文からは道子がそこまでの確固たる信念をもって縫い物をしているということは読み取れないし、忙しい生活に不満を抱く道子はむしろそれとは逆の考えをもっていそうである。また傍線部が憤りの表現だとしたら、そのあとに「大きな脊伸び」をするのは不自然。

⑤ 「投げやり」が言いすぎている。たしかに道子は縫い物を放棄して外に出たが、それはもうどうにでもなれという捨て鉢な気持ちというよりは、③の選択肢にあるように、少し肩の力を抜いて気晴らしに外に出てみた、というくらいの気持ちに近いだろう。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

問３ 16

正解　④

難易度　★★★☆☆

所要時間　４分

設問パターン　内容説明型＋心情説明型

解答範囲　Ⅰ（1～55行目）

解説

この設問は厳密には内容説明ではなく、道子の内面の動きの説明であるので、傍線部周辺にある道子の感情が表れた部分を探してみよう。傍線部直前の50行目に「自分独特の生き方を発見した興奮」とあるのはすぐに見つかるだろう。そのさらに前には、45～48行目の「道子は月の光りのためか一種悲壮な気分に衝たれた――自分はいま潑剌と生きてはいるが、違った世界に生きているという感じがした。人類とは離れた、淋しいがしかも厳粛な世界に生きているという感じだった」という記述と、49行目の「湯につかって汗を流すとき、初めてまたもとの人間界に立ち戻った気がした」という記述もある。これらのことからわかるのは、道子は月光に照らされて走るという行為を通じて、寂しく厳粛な世界にただ一人潑剌と生きているような気持ちになり、また自分独自の生き方を発見した興奮にわくわくもしたのだ。また、「国策」（6行目）という言葉から連想される時代背景を踏まえると、④の「社会や家族の一員としての役割意識から逃れた」という説明も間違いではないだろう。よって、正解は④。

不正解の選択肢

① 道子は自分独自の生き方を「見つけた」ことに興奮しているのであり、「自分の行為の正しさ」についての言及はない。「厳粛」という言葉から連想させる引っ掛けか。

② 道子は自分独自の生き方を見つけたことに興奮しているのであり、走ることの背徳性に興奮しているのではない。

③ 前半部分が、29行目の「ほんとうに潑剌と活きている感じがする。女学校にいた頃はこれほど感じなかったのに」という記述と矛盾している。また、自分独自の生き方の発見は確かに道子の気持ちを変えただろうが、生活を変えるかどうかは書かれていない。

⑤ 「感覚的に確かめ」という言葉から、後半部分は「肌を強くこすった」に対応しているのだろう。だが道子は、「人類とは離れた、淋しいがしかも厳粛な世界」にいた自分を、「社会や家庭の中で役割」を持つ自分へと引き戻す気持ちで肌をこすったのではなく、ただ単にわくわくした気持ちを抑えきれずに肌をこすったのである。「人類とは離れた、淋しいが厳粛な世界」において「他者とかかわりを持てないことの寂しさ」も道子の中にあるかもしれないが、それが彼女の感情の主部ではない。彼女の心を占めているのは、あくまでわくわくした気持ちなのである。

問４ 17

正解　③

難易度　★★★☆☆

所要時間　３分

設問パターン　特殊型

解答範囲　Ⅰ（1～55行目）・Ⅱ（57～119行目）

解説

この問いに関連してきそうな記述は、冒頭の陸郎が道子をからかう場面、

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

33行目の「兄弟は親し過ぎて揶揄う」という道子の述懐、54行目の『おばあさんのようなことをいう』とふたたび陸郎が道子をからかう場面、60行目の「妹の後をつけるということが親し過ぎるだけに妙に照れくさかった」という陸郎の述懐などである。これらの描写から読み取れるのは、二人は親しさゆえにからかったり、相手のことを知るのが気恥ずかしかったりするということである。これに合致するものを選ぶと、正解は③。

不正解の選択肢

① 「いとおしく」が言い過ぎている。本文中で言及されているのは互いへの「親しさ」だけである。「母親に反発」というのも言い過ぎ。

② 陸郎は「妹の後をつけ」真相を明らかにすることを頼まれたのであり、面倒を見ることを頼まれたのではない。道子が「陸郎への憧れ」を抱いているというのも本文からは読み取れない。

④ 「融通の利かない性格」は本文から読み取れないし、「何の意味もないと感じ」たのではなく、親しさゆえの照れくささから陸郎は妹のあとをつけることを素直に引き受けなかったのである。「道子は陸郎の奔放な性格をうらやましく感じる」というのも本文から読み取れない。妹をからかったりしている兄弟の関係は「ぎこちない」ものだとはいえないだろう。

⑤ ②と同じく母親は陸郎に道子の面倒を見ることを頼んだのではない。陸郎が道子の振る舞いを大人びていると思っており信頼している、というのも本文からは読み取れない。

問5　18

正解　①

難易度　★★★☆☆

所要時間　3分

設問パターン　内容説明型

解答範囲　Ⅱ（57～119行目）・Ⅲ（121～145行目）

解説

傍線部Cは、娘の外出を不審がっていた両親だが、娘はランニングに出かけているのだとわかると、「それより俺は、娘の友達が言ってるように、自分の娘が月光の中で走るところを見たくなったよ」（109～110行目）という父親の言葉をきっかけに、娘を心配し叱ってやろうという気持ちが娘の勇姿を見たいという気持ちに変わってしまったということを自覚し、自分たちでおかしくなってしまった、というものである。これにより正解は①か⑤に絞ることができる。

次に傍線部Dを確認してみると、その直前に「二人は月光の下を寒風を切って走ったことが近来にない喜びだった」（145行目）とあり、これに一致するものを選ぶと、正解は①となる。

不正解の選択肢

② 母親が道子を叱責しようとしていたことからわかるように、ランニングは見とがめられる行為のはずだし、「世間の批判」「勇気のなさ」などは明らかに本文からは読み取れないことである。

③ ②同様、はじめは娘を叱責しようとしていたのだから、手紙を見たことが「取り越し苦労」であったとは言えない。また、娘を追ったのは「心配」からではなく好奇心からであり、「必死さにあきれて」笑ったのでも

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

ない。

④　Ｃの部分は「互いの思い入れの強さ」ではないし、Ｄの部分も「娘の気持ちが理解できた」喜びに笑ったのではない。

⑤　Ｄで「娘のことも忘れて」とあるので、後半部分は誤り。

問６　19・20

正解　④・⑥

難易度　★★★★★

所要時間　４分

設問パターン　表現・構成型

解答範囲　全体

解説と解答選択肢

表現の特徴を問う設問なので、消去法で解いていく。

①は、「心内のつぶやきのみ」が間違い。16行目の「あわただしい、始終追いつめられて、縮こまった生活ばかりして来たという感じが道子を不満にした」などは、心内のつぶやきではないが道子の心情を説明している。英語のリスニングの選択肢と同様のことであるが、「All ～（すべて～だ）」「Every ～（どれも～だ）」が含まれている選択肢は疑ってかかろう。②は、「不自然な返答」「誇張した言い回し」が間違い。道子はたしかに倒置法で答えているが、不自然ではないし、兄の発言も誇張したものというより単にからかっているだけのものである。③は、「あきれた気持ち」が間違い。108行目の「まあ」は読点がないが、「まあまあ、落ち着きたまえ」と同じ種類の、相手をなだめる心情がこめられたものである。④は正しそうなので、いったん保留する。⑤は、39行目の「ちょっと銭湯に行って来ます」など、道子が口火を切る場面も複数見られ、消極性も本文から読み取れないので、不適当。⑥も正しそうなので保留。

残った④⑥を再度、確認する。④について、第1場面終わりを見てみると、43・44行目で「道子は弾条仕掛のように飛び出した」と直喩が使われており、第４場面半ばでは、130・131行目に「青白い月の光が～の如く見えた」とあるように確かに色彩表現が用いられている。よって④は正しいといえる。次に⑥についてだが、これは本文を通読すれば正しいとわかるだろう。第４場面のはじめでは「父親」「母親」であった二人が、138行目で「夫」と「妻」になっている。⑥も正しいので、解答は④・⑥。

（制作：大久保らな、小島朋朗）

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

2014年度　センター試験　本試験　国語

第3問　古文

難易度	所要時間	出典
★★★★★	20分～	『源氏物語』（夕霧）／紫式部 藤原道長の長女であり、一条天皇の中宮でもあった藤原彰子に、女房として仕えた紫式部が、平安時代中期に著した全五十四帖からなる長編物語。表現の美しさや話の完成度から、古典の中の古典として広く親しまれている。主人公である光源氏の生きざまを描いた文章が大部分を占めるが、2014年度の出題文のように光源氏の子孫に焦点をあてた物語も含まれている。この出題文は第三十九帖である「夕霧」からの引用である。これは光源氏とその正妻葵の上との間に生まれた息子、大将殿についての物語であり、彼は巻の名前をとってここでは夕霧と呼ばれるが、この呼び名は巻を追うごとに変化していくので注意してもらいたい。 夕霧は亡くなった親友の柏木を悼み、弔問を重ねるが、そのなかで柏木の妻であった落葉宮に心惹かれるようになる。夕霧は拒み続ける落葉宮の傍らで自らの思いを訴え続けるが、思いはかなわぬままであった。結局夕霧は強引に逢瀬を重ねてしまう。祈祷師から夕霧が落葉宮のもとで一夜を明かしたと聞き、これまでにない夫の振る舞いに衝撃を受けた三条殿は実家に帰ってしまう。本文はその続きからの出題である。

傾向と対策

2014年度の古文は近年のセンター試験の中では抜きん出て難易度が高く、確実に得点するにはかなりの時間がかかったであろう。くわえて漢文も難しくなっていたので、時間配分はかなり厳しいものになったに違いない。『源氏物語』は読解の難易度が極めて高く、時間はかけられればかけられるだけいいということを考えると、標準的な難易度であった現代文をできるだけ速く解き、余った時間をできるだけ古文に回すことができれば理想的であった。今回はそのような意図で時間配分の上限を定めていない。

『源氏物語』は古文の中でも極めて難解だが、良作であるため難関大学の2次試験でもしばしば取り扱われる。登場人物が多く、初見だと混乱しやすいため、大まかなあらすじと人間関係だけでもマンガや参考書で確認しておくのは、読解や解答の手助けになるかもしれない。『源氏物語』がなぜ難しいかというと、省略が多いためだ。特に主語、述語が省略されていると一気に読みづらくなるので、丁寧に文章を追っていくことが要求される。どうしても難しいという文は読み飛ばして、一度全体を読み通すことが重要だ。全体像をおおまかにでも把握することで設問を解くときに大きく役に立つ。

この「過去問解説」は、とても長いものとなっているが、それだけ吸収できることが多い、ということである。適宜読み飛ばすのは良いが、正解した問題だからといって解説を一切読まずに済ませてしまうのはいけない。マーク式の問題なのでだいたいの内容を理解していれば解けてしまうが、残りの細かい部分は理解していない場合が多い。ぜひ正解した問題の解説も読んで、読解力を高めてほしい。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

本文解説

前書きの読解

前書きは、「それがないと解けない」から載せてある。前書きをしっかり読んで問題に取りかかろう！（特に人物関係はチェック!!）

『源氏物語』

↓難しそう…後回しにした方がいいかも…。

私（解説者）の所感では、この年は古文を後回しにした受験生の方が高得点であった。題名だけ見て、もしくは文章を読んでみて、難しい！　と感じたら、後回しにするのも一つの手である。センター国語は時間が極めて短いため問題の取捨選択がカギとなる。

「三条殿の夫である大将殿は妻子を愛する実直な人物で知られていた」

↓大将殿は三条殿の夫であり、一途な人だったらしい。

「別の女性に心奪われ、その女性の意に反して、深い仲になってしまった」

↓大将殿は別の女性とも関係を結んでしまったらしい。

「以下は、これまでにない夫の振る舞いに衝撃を受けた三条殿が」

↓そりゃそうだ。

「子どもたちのうち、姫君たちと幼い弟妹たちを連れて、実家へ帰る場面から始まる」

↓姫君（おそらく姉）と幼い弟妹を連れて実家に帰ってしまった！　大変だ！

ということは、文章の内容は、

大将殿による三条殿の説得や、三条殿の嘆き、などの話だと考えられる！

これを踏まえた上で読解に取りかかろう。

本文の読解

第１段落

三条殿、「限りなめり」と、『さしもやは』とこそ、かつは頼みつれ、『まめ人の心変わるは名残なくなむ』と聞きしは、まことなりけり」と、世を試みつる心地して、「いかさまにしてこのなめげさを見じ」と思しければ、大殿へ「方違へむ」とて渡り給ひにけるを、女御の里におはするほどなどに対面し給うて、少しもの思ひ晴るけどころに思されて、例のやうに急ぎ渡り給はず。

現代語訳

三条殿（雲居雁）は、「（大将殿との夫婦関係は）終わりであるようだ」とお思いになって、『そんなこと（大将殿が浮気するなどということ）はあるまい』と、一方では大将殿を信じていたが、『まじめな人が心変わりをしたら、元の相手には未練を残さないものだ』と聞いたことは、本当であったのだなあ」と、（現在の）夫婦の仲のありさまを見てしまった気持ちがして、「何としても夫の無礼な仕打ちを目にするまい」とお思いになったので、三条殿の実家へ「方違えに行こう」とお思いになって、お移りなさったところ、三条殿の姉妹がちょうど実家にいらっしゃる時で、対面なさって、すこし気分が晴れるように思いなさって、いつものように急いで自宅に帰ろうともなさらない。

用語解説

さしもやは　そんなことはあるまい。副詞「さしも」＋反語の係助詞「やは」の意味。ここだけでは解釈が難しいので次を見てみる。

かつは頼みつれ　一方では信頼していた。副詞「かつ」は「一方では」の意味。「すぐに」の意で用いられることもあるので注意。「そんなことはあるまい、と一方では信じていた」というのだから、実際には裏切られてしまっ

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

たわけだ。前書きを踏まえると「そんなこと」は「大将殿の浮気」のことを指すと考えられる。その上で読み進めてみよう。

まめ人　まじめな人。形容動詞「まめなり」で「まじめだ・実用的だ」の意味。

世を試みつる心地して　（現在の）夫婦仲のありさまを見てしまったような気がして、名詞「世」は多義語、この場合は夫婦の仲の意味。動詞「試みる」は様子を見るの意味。

方違へむ　方違いに行こう。「方違へ」とは陰陽道で、外出する際に悪い方角を避けること。行く方角がこれに当たると災いを受けると信じ、前夜別の方角の家に泊まり、そこから方角を変えて目的地に行く。この場面では、三条殿が自宅に戻る際の方違へとして実家に帰っている。

［補足］多義語「世」

1. 世間。世の中（現代語と同じ意味）。
2. 時代。
3. 国家。
4. 一生。寿命。
5. 男女の仲。夫婦の仲。

このように「ものの間や一定の期間」を示す言葉である。入試では盲点となりがちな5の意味が出題されやすいので注意しておこう。

第2段落

大将殿も聞き給ひて、「さればよ、いと急にものし給ふ本性（ほんじゃう）なり。このおとども、はたおとなおとなしうのどめたるところさすがになく、いとひききりに、はなやい給へる人々にて、『めざまし、見じ、聞かじ』など、ひがひがしきことどもし出（い）で給うつべき」と驚かれ給うて、三条殿に渡り給へれば、君たちも片（かた）へはとまり給へれば、姫君たち、さてはいと幼きとをぞ率ておはしにける、見つけて喜び睦れ、あるは上を恋ひ奉りて愁へ泣き給ふを、「心苦し」と思す。

現代語訳

大将殿（夕霧）も（三条殿が実家に帰りなさったことを）お聞きなさって、「思ったとおりだ。（三条殿は）とてもせっかちな性格をしている。この三条殿の父も、やはり、大人らしくゆったりとしたところがまったくなく、ひどくせっかちで、派手にふるまって事を荒立てなさる人で、『（大将殿には）ひどくあきれたものである、会いたくない、話も聞きたくない』など（と思って）、非常識なこともなさりかねない」と驚かずにはいられず、（夫婦の自宅である）三条殿にお移りなさると、子どもたちも一部は残っていらっしゃったので、（おそらく三条殿は）姫君たち、そしてたいそう幼い子どもたちを連れて行ってしまいなさった（ようだった）、（子どもたちは大将殿を）見つけてうれしくてまとわりつき、ある子どもは三条殿をお慕いして悲しくてお泣きになることを、（大将殿は）「ふびんだ」とお思いになる。

用語解説

さればよ　思ったとおりだ。ラ変動詞「然り」に接続助詞と間投助詞がくっついてできたのでこのような意味だと覚えておけばよい。

いと急にものし給ふ本性なり　とてもせっかちなご性格だなあ。動詞「ものす」は英語の代動詞「do」のように、「する・行く・来る」などさまざまな意味に使われる。具体的には三条殿の「実家に帰る」という行動を指すと思われるが「急に実家に帰る」性格（本性）という表現は意味不明なので、「せっかちな性格」と抽象化した表現を用いよう。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

はた　また。やはり。

さすがになく　まったくなく。「さすがに＋否定語」でまったく〜ない、の意味を表す。

ひがひがしきこと　ひねくれていること。もしくは非常識であること。

君たちも片へはとまり給へれば　子供たちも一部は残っていらっしゃったので。大将殿夫妻のご子息も一部は自宅にとどまりなさっているので、名詞「片へ」は一部、片方の意味、前書きに書いてあったように三条殿が姫君たちと幼い弟妹たちを連れていってしまったが、まだ一部の子供たちは大将殿夫妻の邸宅に残っているということ。

第3段落

消息たびたび聞こえて、迎へに奉れ給へど、御返りだになし。「かくかたくなしう軽々しの世や」と、ものしうおぼえ給へど、おとどの見聞き給はむところもあれば、暮らしてみづから参り給へり。「寝殿になむおはする」とて、例の渡り給ふ方は、御達（ごたち）のみさぶらふ。若君たちぞ乳母（めのと）に添ひておはしける。

現代語訳

「（大将殿は）手紙をたびたび送り申し上げて、（三条殿を）お迎えに（従者を）差し向けなさったが、お返事さえない。「このように、強情で軽率な女だなあ」と不愉快にお思いなさるが、三条殿の父が見聞きなさるところもあるので、日が暮れるまで待って、自ら（三条殿の実家へ）参上なさった。（三条殿は）寝殿にいらっしゃる」ということで、（三条殿が）いつも使っていらっしゃるお部屋は、女房たちだけが控えている。子どもたちは乳母に寄り添っていらっしゃった。

用語解説

消息たびたび聞こえて　手紙をたびたび送り申し上げて。名詞「消息」は「手紙・伝言・訪問」などの意味、動詞「聞こゆ」は多義語、この場合は送り申し上げる、の意味。

迎へに奉れ給へれど　お迎えに従者を差し向けなさったが。最初は、三条殿を迎えにわざわざ自分で行ったわけではない。従者を送ったのだ。

ものしうおぼえ給へど　不愉快にお思いなさるが。形容詞「ものし」は「不快だ」の意味、第2段落で出てきた動詞の「ものす」とは違うので注意しよう。

暮らして　日の暮れるまで待って。動詞「暮らす」には「日の暮れるまで時間を過ごす」と「毎日を送る」（現代語とほぼ同じ意味）があるが、この場合は前者なので注意！

【補足】多義語「聞こゆ」

現代語の「聞こえる」は音声に関する意味しかもたないが、古語では情報が伝わることに関係したいろいろな意味で用いられる。

1. 耳に入る。
2. 噂される。
3. 理解される。
4. 【謙譲語本動詞】〜申し上げる（さまざまな動作＋申し上げる、となることも、本文中でも手紙申し上げるでは変なので、手紙を送り申し上げる、となる）。
5. 【謙譲語補助動詞】〜し申し上げる。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

第４段落

「今さらに若々しの御まじらひや。かかる人を、ここかしこに落とし置き給ひて、など寝殿の御まじらひは。ふさはしからぬ御心の筋とは年ごろ見知りたれど、さるべきにや、昔より心に離れがたう思ひ聞こえて、今はかくくだくだしき人の数々あはれなるを、『かたみに見棄(す)つべきにやは』と頼み聞こえける。はかなき一ふしに、かうはもてなし給ふべくや」と、いみじうあはめ恨み申し給へば

現代語訳

「今さら子どものような付き合いをなさるなあ。子どもたちをあちこち（大将殿夫妻の邸宅や三条殿の実家）に置き去りなさって、どうして、女御たちと遊んでいらっしゃるのでしょうか。（私の妻として）ふさわしくないご性格だとは長年見知っていましたが、そうなるはずの前世からのご縁なのでしょうか、昔からあなたのことを心より離れがたいと思い申し上げて、今はこのようにたくさんの子どもたちがかわいそうなのを『夫婦が互いに見捨て申し上げることができようか。いやできない』と頼りに申し上げていたのに。つまらないことで、ここまでにお振る舞いなさってよいわけがない」と、ひどく蔑み、恨み申し上げると

用語解説

かかる人をここかしこに落とし置き給ひて　子どもたちを大将殿夫妻の邸宅や、三条殿の実家に置き去りなさって。「ここかしこ（あちこち）」に「落とし（置き去りにし）」ていることから、「かかる人」は子供たちのことだとわかる。

ふさはしからぬ御心の筋　（私、大将殿の妻として）ふさわしくないご性格。何にふさわしくないのかがわかりにくいが、男女の仲においてふさわしくない、という意味だと考えられる。

くだくだしき人の数々あはれなる　たくさんの子どもたちがかわいそうなので。形容詞「くだくだし」は「ごたごたしている・わずらわしい」などの意味。

かうはもてなし給ふべくや　このように振る舞いなさってよいのだろうか。動詞「もてなす」は対象に積極的に働きかけることを意味し、「処置する・ふるまう・世話をする・ごちそうする」などさまざまな意味をもつ。この場合は「ふるまう」の意味。「べくや」は助動詞「べし」＋反語の終助詞「や」。

あはめ（淡め）　さげすむ

【補足】多義語「はかなし」

1. 頼りない。弱々しい。
2. もろい。死んだ状態を婉曲にいう。
3. 取るに足らない。つまらない。
4. とりとめがない。ほんのちょっと。

頻出の多義語かつ珍しい４での訳出なのでこれを機におさえておこう。

第５段落

「何ごとも、『今は』と見飽き給ひにける身なれば、今、はた、直(なほ)るべきにもあらぬを、『何かは』とて。あやしき人々は、思し棄てずは嬉(うれ)しうこそはあらめ」と聞こえ給へり。

現代語訳

「なにごとにつけても、『もうこれで最後だ』と見飽きなさってしまったわが身なので、また、今は自分はよくなるはずもないので『どうして、自分が変

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

わることができようか、いやできない』と思って。見苦しい人々（自分との子どもを指す）のことは、お見捨てにならないならばうれしく思います」と申し上げなさった。

用語解説

『何かは』とて　「どうして変わることができようか、いやできない」と思って。『何かは』は「どうして～だろうか」というのが本来の意味。助詞「かは」は反語を表す。

第6段落

「なだらかの御答へや。言ひもていけば、誰が名か惜しき」とて、強ひて「渡り給へ」ともなくて、その夜は独り臥し給へり。

現代語訳

「ゆったりとしたお返事であることだなあ。せんじつめていくと、名誉が傷つくのはあなたのほうですよ」と言って、「お戻りなさってください」と三条殿に強いることもなくて、その夜は独りでおやすみなさった。

用語解説

言ひもていけば　せんじつめていくと。動詞「いひもてゆく」は「順を追って話していく・せんじつめていく」の意味。

第7段落

「あやしう中空なるころかな」と思ひつつ、君たちを前に臥せ給ひて、かしこに、また、いかに思し乱るらんさま思ひやり聞こえ、やすからぬ心づくしなれば、「いかなる人、かうやうなること、をかしうおぼゆらん」など、ものぞりしぬべうおぼえ給ふ。

現代語訳

「不思議な事に落葉宮には疎まれ、妻には家出され、身の置き所がない立場であることだなあ」と思いつつ、子どもたちを前に寝かせなさって、落葉宮の方では、また、どのように不安に思いなさっているであろうかと思いをはせ申し上げ、心配なので、「どのような人がこのような恋愛というものを面白く思うのだろうか」などと、懲り懲りだと思われなさる。

用語解説

いかに思し乱るらんさま思いやり聞こえ　どのように不安にお思いなさっているであろうかと思いをはせ申し上げ。直前の「かしこに」は、大将殿は三条殿には名誉が傷つくなどといい、強いては帰らせようとしていないので、思いをはせるとすれば三条殿の方ではなく、落葉宮の方であろう。

第8段落

明けぬれば、「人の見聞かむも若々しきを、『限り』とのたまひはてば、さて試みむ。かしこなる人々も、らうたげに恋ひ聞こゆめりしを、選り残し給へる、『様あらむ』とは見ながら、思ひ棄てがたきを、ともかくももてなし侍りなむ」と、威し聞こえ給へば、「すがすがしき御心にて、この君たちをさへや、知らぬ所に率て渡し給はん」と、あやふし。

現代語訳

夜が明けたので、「三条殿が家出したことをほかの人が見聞きするのも子どもっぽいので、あなたが『もう夫婦関係はおしまいだ』と完全におっしゃってしまうならば、私も試しにそうしてみましょう。大将殿夫妻の邸宅に残された子どもたちもあなたのことをいじらしく慕い申し上げているようだったが、彼らを選んで残しなさったのは『何か理由があるのだろう』とは思いな

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

がら、私は彼らを見捨てることができないので、ともかくお世話します」と三条殿を脅し申し上げなさると「（大将殿は）思い切りのよいご性格なので、自宅に残してきた子どもたちだけではなく、実家にいる子どもたちまでも、知らない所にお連れなさるのではないか」と心配である。

用語解説

人の見聞かむも若々しき　三条殿が子どもを連れて家出したことをほかの人が見聞きするのも子どもっぽい。前にも出てきたように形容詞「若々し」は「幼稚だ・子どもっぽい」の意味。この文脈で子どもっぽいことは三条殿の対応の話、よってほかの人に見聞きされると、みたいな意味になると考えられる。

第９段落

姫君を、「いざ、給へかし。見奉りにかく参り来ることもはしたなければ、常にも参り来じ。かしこにも人々のらうたきを、同じところにてだに見奉らん」と聞こえ給ふ。まだいといはけなくをかしげにておはす、「いとあはれ」と見奉り給ひて、「母君の御教へにな叶ひ給うそ。いと心憂く、思ひとる方なき心あるは、いと悪しきわざなり」と、言ひ知らせ奉り給ふ。

現代語訳

姫君に「さあ、こちらにいらっしゃいよ。お会いし申し上げるためにこのように三条殿の実家に参上することもみっともないので、いつも参上することはできないでしょう。自宅にもかわいらしい子供たちがいるので、あなたもせめて同じ所でお世話申し上げよう」と申し上げなさる。まだ幼く、かわいくていらっしゃる姫君のことを「とてもかわいそうだ」と拝見なさって、「母君のお教えに従いなさってはいけない。とてもつらいことであるが、人の気持ちを理解できないところがあるのは、とてもいけないことである」と言い聞かせ申し上げなさる。

用語解説

かしこにも人々のらうたきを　大将殿夫妻の邸宅にもかわいらしい子どもたちがいらっしゃるので。「かしこ」は遠称の指示代名詞であり、「あそこ」という意味。ここでは大将殿夫妻の邸宅を指す。「らうたし」は「かわいい」という意味。本文では連体形で接続助詞「を」に接続しているため直前の「の」は同格だとわかるので、「らうたき」なのは「人々」である。また、（注）13より「かしこ」にいて「らうたし」なのは残された子どもたちだとわかる。

同じ所にてだに見奉らん　姫君もせめて同じ所でお世話申し上げよう。副詞「だに」は最小限の限定「せめて～だけでも」、添加「～までも」、類推「～だって」の意味があるが、この場合は最小限の限定。ここでの「見る」は「世話をする」という意味。「奉る」は謙譲の補助動詞。

要約

第１場面　浮気された三条殿、実家に帰る（～11行目まで）

大将殿に浮気されてしまった三条殿は、子供の一部をつれ実家に帰ったところ、姉妹に偶然出会うことができ、いくらか気を晴らすことができた。自宅に戻った大将殿は残された子供たちを見て不憫に思うのだった。（97字）

第２場面　大将殿、恋愛に嫌気がさす（12～26行目まで）

手紙を無視された大将殿は仕方なく三条殿の実家に向かったが、三条殿を連れ戻すことはできず、浮気相手にも妻にも疎まれる身の置き所のない状況で、恋愛に嫌気がさしてしまう。（82字）

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

第３場面　大将殿、姫君に妻の悪口を言う（27行目～）

翌日も帰ろうとしない三条殿を見かねた大将殿は、離婚しようと脅しをかけるが、三条殿は不安に思うばかりで状況は打開されず、大将殿は姫君に妻の悪口を言い聞かせるのであった。（83字、計262字）

設問解説

問1　21　～　23

正解　（ア）⑤　（イ）①　（ウ）④

難易度　★★★★☆

所要時間　2分

設問パターン　短文解釈

傾向と対策

解釈といっても文脈だけで判断できる問題はほとんどなく、しっかりとした文法知識を試す問題であるといえる。正確な品詞分解をして問題に取りかかろう。

この問題に関しては、設問を先に見てしまうとそれらしい選択肢が並んでいるため騙されやすい。一回、頭の中で軽く答えを考えてから設問を見る方が良いだろう。

（ア）いかさまに／して／この／なめげさ／を／見／じ

思考方法

逐語訳してみると「何とかして、このひどさを見まい！」。三条殿の気持ちだから、「このひどさ」というのは夫の不倫の話だろう。そのうえで選択肢を見ると正解は⑤が最も近い。

解説

まず、文頭を見てみる。「いかさまに」は「いかさまなり」（形動）、「どのようだ・どんなふうだ」の意味。この部分はだいたい全部合ってそうだ。

次に、「なめげさ」の部分を見てみると①「みじめ」③「冷淡」④「ひどい」はおかしい。よって残りは②と⑤。「じ」は打消推量か打消意志のみ。「～であるまい。～するまい」みたいな感じのはず。②「～すむだろう」はおかしい。よって、正解は⑤となる。

文脈より、「このなめげさ」が夫の無礼な仕打ち、つまり夫の不倫のことを指すことは自然といえる。

いかさまに　「いかさまにも」（副詞）の略、「ぜひとも・何とかして」の意味。

なめげさ　「なめし」（形容詞）の語幹に、形容動詞の語幹を作る接尾語「げ」と、形容詞・形容動詞の語幹について名詞化する接尾語「さ」がついた形。「失礼さ・無礼さ」の意味。

じ　打消意志、打消推量の助動詞「じ」の終止形。この場合は打消意志。

（イ）らうたげに／恋ひ／聞こゆ／めり／し／を

思考方法

「らうたげに」は「かわいらしげに」。「恋ひ聞こゆ」は動詞に謙譲を表す補助動詞「聞こゆ」がついたもので「お慕い申し上げる」となる。よって正解は①らしい。

解説

主語は「かしこなる人々」、つまり大将殿夫婦の邸宅に残された年長の息子たち。助動詞「めり」は視覚的な推定を表し、「～のようだ」などと訳す。さらに「し」は過去の助動詞なので、傍線部末の「～めりしを」は「～のようだったが」という訳になる。よって②、③、④は×。「らうたげなり」は「か

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

わいらしい」の意味なので、「らうたげなり」を「かわいそうなことに」と訳している⑤も ×。

以上より正解は①だとわかるが、もう一カ所判断基準となるポイントがある。それが「聞こゆ」である。ここでは「恋ふ」の連用形「恋ひ」に接続する謙譲語補助動詞として用いられているので、「～し申し上げる」という訳が適切。②、③の「聞いて」、④の「～と申し上げて」という訳は誤り。

らうたげに　「かわいらしい・いじらしい」の意味の「らうたし」(形容詞) の語幹に接尾語「げ」が付いた形容動詞「らうたげなり」の連用形。

聞こゆ　「耳に聞こえる・噂される・理解される・申し上げる」などの意味をもつ動詞。この場合は「恋ひ聞こゆ」となっているため補助動詞化して「～し申し上げる」と謙譲の意を表す。

めり　眼前推量の助動詞「めり」の連用形。伝聞とは違って、実際に見たことによる推定であることに注意！

【補足】多義語「めり」

推量の助動詞「めり」は「見あり」から派生したといわれている。これを考えると実際に見たことによる推定を表すことは明らかであろう。ちなみに助動詞「なり」は「音(ね)あり」から派生したので聴覚に基づく伝聞推定を表す。

(ウ)　いざ／給へかし

思考方法

基礎的な単語。即答しよう。いざたまへ、は「こちらにいらっしゃい」という意味だから④。

解説

単語は古文読解の一番の基礎である。これを落とした人は一度、古文単語帳を見直してみることをお勧めする。また、単語帳の「名詞、形容詞、形容動詞、動詞、敬語」の項目はもちろんのこと、「連語、慣用句、接続詞、(方違えのような) 古文特有の単語」をおろそかにしないことも重要だ。

いざ、給へ　「さあ、いらっしゃい」の意味の重要連語。

かし　念押しの終助詞で「～よ・～ね」の意味。

問2　24

正解　⑤

難易度　★★★☆☆

所要時間　1分

設問パターン　基礎的文法

傾向と対策

古文をしっかりと勉強した人ならば簡単な問題なので落としてはいけない。aから順に見ていくうちに徐々に絞れていくので、選択肢全体を見ずとも答えが出せることが多い。基本的に文脈を理解せずとも解答できるので、最初にこの問題を単独で処理しても構わない。

思考方法

a「なめり」の形は断定の「なり」＋推定の「めり」のはず。

b「感情＋る」で、二重敬語は使われてなさそうだから自発だろう。

c「のたまひはて／ば」なので動詞の活用語尾のはず。これで確定することができた、正解は⑤。

解説

まずaから見ていこう。「限りなめり」について考えると、「限り」は名詞で、「限り／な／めり」と分けられる。「な」の形の助動詞は、推量の「ぬ」

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

の未然形と、断定の「なり」の連体形撥音便無表記のいずれかであり、さらに推定の「めり」は終止形接続またはまたはラ変型連体形接続なので、その前が未然形であることはありえない。よって、断定の「なり」＋推定の「めり」。

ちなみに、「なめり」「ななり」と表記された場合の「な」は全部断定の助動詞「なり」なので覚えておくと素早く処理できる。

次にbを見よう。上が未然形なので助動詞「る」とわかる。「る」は意味が四つもあり厄介だが、感情を表す語句が上についているので、自発の可能性が高いと思いながら見ていく。尊敬は二重尊敬が文章中に出てこないので×。受身は動作の主体がいないので×。可能だと意味が通じないので×。よって自発。

そして、cを見てみよう。品詞分解すると、「のたまひ／はて／ば」と分けられる。これは動詞「のたまふ」に完了の補助動詞「はつ」と、接続助詞「ば」がついた形。「最後まではっきりおっしゃる」のような意味となる。

この時点で正解は⑤だと定まってしまうのだが、一応最後にdを見てみよう。助動詞「す」「さす」は「せ給ふ」「させ給ふ」の形だとほぼ間違いなく尊敬の意味を表し、二重尊敬となることが多いのだが、それ以外の場合は使役と考えても差し支えない。今回は下に「給ふ」がついてない上に、もし尊敬ならば、「せ奉り給ふ」という文が、尊敬→謙譲→尊敬となってしまい、敬語の基本的なルール（詳しくは左記の［補足］を参照）に反するので、×。よって使役だとわかる。以上より解答は⑤。

［補足］敬語の組み合わせの順番についての基本的なルール

敬語は、

尊敬語→謙譲語→丁寧語

の順番で並んでおり、それが前後することは絶対ない。

これは、すごく基本的な知識なのだが、あまり載せている参考書が多くないので、この解説を読んだ諸君にはこの機会に覚えてほしい。

【参考】　助動詞「る」「らる」の判別方法

助動詞「る」「らる」には、受身、自発、可能、尊敬という四つの意味がある。文脈だけ見ると、四つのうちの複数が当てはまりうる文も珍しくなく、見極め方を知らないと苦労する場面が多い。そこで今回この四つをどのようにして見極めればいいかを伝えたいと思う。

［ステップ1］可能であるかを確認！

「る」「らる」の下に否定語が入っていた場合、この場合はほぼ100％可能だと考えて差し支えない。「～することができない」と訳そう。否定語が入っていなかった場合は次のステップに進もう。

［ステップ2］自発であるかを確認！

「る」「らる」の上に感情やそれによる動作を表す言葉が入っていた場合は、高い確率で自発である。「自然と～してしまう」と訳そう。感情を表す言葉や心情の関わる動作ではなかった場合は次のステップに進もう。

［ステップ3］受身であるかを確認！

「る」「らる」の上に受け身の対象を表す助詞「に」があった場合、この場合は高い確率で受身である。「～に～される」と訳そう。助詞「に」がなかった場合は次のステップに進もう。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

【ステップ４】尊敬であるかを確認！

「る」「らる」の文の主語が高貴な人であった時、この場合は尊敬であろう。「～なさる」と訳そう。ただし、「せ給ふ」「させ給ふ」の時の助動詞「せ」「させ」はほぼ間違いなく尊敬であるのに対し、「れ給ふ」「られ給ふ」の時の助動詞「れ」「られ」はほぼ絶対に尊敬ではないので注意してほしい。

【ステップ５】残りは文脈勝負！

四つのパターンすべてが当てはまらない場合はなかなかにレアケースだと思うが、その際には文脈で判断してほしい。その場合は受身である可能性が高い（受身の主語が省略されている）。

以上の五つのステップを踏めば、簡単に「る」「らる」の識別が可能となる。これを知らなかった諸君はぜひこの機会に覚えてほしい。

問３　25

正解　③

難易度　★★★☆☆

所要時間　２分

設問パターン　傍線部説明

傾向と対策

標準的な問題なのであわてずに処理していこう。主語の変わり目に注意！

助詞の「て」のあとは、ほぼ100％主語が変わらない！　「已然形＋ば」のあとは主語が変わることが多いので要チェック！

思考方法

「心苦し」とお思いになった対象は、「姫君たち～あるは上を恋ひ奉りて愁へ泣き給ふ」らへんかな。（注）より、上ってのは三条殿のこと。つまり今、心苦しくなった人の周りには、三条殿を恋ひ奉る人がいる！　ということは、三条殿はこの場にいない。姫君が主語ではない。てことは、主語は大将殿。そこらへんを読むと、子どもたちが喜んだり、泣いたりしていることが心苦しいらしい。ということは、正解は③。

解説

設問を見てみると、「心苦し」の意味はどの選択肢もおおかた合ってそうだ。ポイントとなるのは「心苦し」の主語と、「心苦し」く思った内容らしい。それをふまえて段落を初めから見ていこう。

「大将殿も聞き給ひて～と、驚かれ給うて」（大将殿が、三条殿が実家に帰ったことを聞いて驚いた）。助詞の「て」でつながっているし、主語は大将殿のままで変わってないだろう。

「三条殿に渡り給へれば」（大将殿が、大将殿夫妻の邸宅に向かうと）。ここでの三条殿は、（注）にあるように、「大将殿夫妻の邸宅」のこと。（注）もちゃんと読むクセをつけよう！　「已然形＋ば」は要注意！　でも、単純接続っぽいし主語は大将殿のままで変わってなさそう。

「君たちも片へはとまり給へれば」（子供たちも一部は大将殿夫妻の邸宅に残っているので）。また、「已然形＋ば」だ。この場合は、理由の意味で使われてるし、主語が変わるかも！　次を見てみないと…。

「姫君たち、さてはいと幼きとをぞ率ておはしにける、見つけて喜び睦れ、あるは上を恋ひ奉りて愁へ泣き給ふを」（姫君たち、そしてたいそう幼い子供を引き連れてお帰りなさったようだ、見つけて喜び、あるものは三条殿を恋

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

しく思って泣いていることを)。解釈が難しい。姫君たちを引き連れてしまったのは三条殿であり、この場にいるのは大将殿のはずなので、「(三条殿が)姫君たち、そしてたいそう幼い子供を引き連れて帰ってしまったようだ、(邸宅に残っている一部の子供たちが)(大将殿を)見つけて喜び、あるものは三条殿を恋しく思って泣いていることを」のような意味だと考えられる。

ということは、「心苦し」と思った部分は「見つけて喜び睦れ、あるは上を恋ひ奉りて愁へ泣き給ふ」だとわかり、「心苦し」の主語は大将殿だとわかる。そうすると答えは③。①、②、⑤は主語がおかしい。④は「置き去りにされた子」が「母に連れていかれた姉妹や弟をうらやんで」いるとは書いていないし、「三条殿」が「我が子の扱いに差をつける」ことをひどいと思っているわけでもない。

心苦し　「心配である・つらい・気の毒だ」といった意味をもつ形容詞。現代語的な「申し訳ない」という意味は含まないので注意が必要だ。この場合は「気の毒だ」の意味。

方へ　「一部分」の意味の名詞。

さては　「それでは・そのほかには・そして」などの意味をもつ接続詞、この場合は「そして」の意味。

あるは　「あるものは」の意味。この場合は子供の一部。

問4　26

正解　②

難易度　★★★★☆

所要時間　2分

設問パターン　心情説明

傾向と対策

問3と同様に心情を説明するタイプの問題であるが、主語はあらかじめ与えられている。傍線部の前の部分の読解難易度が上がっているため、気を引き締めてとりかかろう。パッと見ると傍線部がほとんど関係なさそうな問題でも、傍線部の分析は欠かさない。傍線部を分析するだけで、選択肢を絞れる場合があるので傍線部分析は欠かさずに！

思考方法

まず、傍線部は「もの懲りし／ぬ／べう／おぼえ／給ふ」と分けられる。「もの懲りし」は、あまり見たことがないと思う。しかし、大体の意味で懲りていることは把握できる。「ぬべう」は、完了・強意の助動詞「ぬ」の終止形＋推量の助動詞「べし」の連用形「べく」のウ音便変化「べう」で「～してしまいそう」の意味。「おぼえ」は、「思われる」の意味で「おぼゆ」の連用形。つまり「懲りてしまいそうにお思いなさる」のような意味だと考えられる。主語は大将殿だから、大将殿が何かに懲りているらしい。この時点で①、④、⑤は微妙だと考えられる。

「中空なる」は（注）にあるように、落葉宮には疎まれ、妻には家出される状況なのだから、ここも主語は大将殿。ということは、『あやしう中空なるころかな』～など」までを見れば良さそう。

「いかに思し乱るらんさま思ひやり聞こえ」とあって、「らむ」は現在推量だから、大将殿はどちらかが思い乱れるのを心配してるようだ。それで「やすからぬ心づくし」、つまり心配らしい。そのような感じで見ると、正解は②となる。

解説

この段落自体は指示語が多く、なかなかに読解が難しい。しかし、（注）を

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

頼りにすればある程度の内容把握は可能である。（注）より「中空なる」が落葉宮と三条殿との板挟みにある大将殿の話だとわかり、「思いをはせ申し上げる」主体も大将殿となる。

「らむ」は現在推量なので、「いかに思し乱るらんさま」は誰かの「どのように思い乱れなさっているだろう様子」のような意味になる。それを「思ひやり聞こえ」る、すなわち「思いをはせ申し上げる」主語は大将殿であり、そのため、「やすからぬ心づくし」つまり心配しているのである。

さて、ここでは誰を心配しているのだろうか。

２段落目では「『さればよ、いと急にものし給ふ本性なり』」と書いてあったように、三条殿のことをやや批判している。ＡＢＣの意味の把握は難しいので、あとにまわして、ＡＢＣの会話の結果として、「強ひて『渡り給へ』ともなくて、その夜は臥し給へり」ということは、大将殿は「帰ってこい！」と三条殿に言うことはなかった。そう考えると大将殿が心配する相手は三条殿ではなく、落葉宮だと考えるのが妥当であろう。

続く「いかなる人、かうやうなること、をかしうおぼゆらん」は「かうやうなること」の意味が掴みづらいが、大将殿が落葉宮と三条殿の間で板挟みになっている状況をふまえると、大将殿が恋愛のようなこと（＝かうやうなること）に嫌気がさしていると考えられる。

以上により正解は②となる。①、④、⑤は傍線部分析の時点で△。①は「どうしてこんな女を良いと思ったのか」は×。③は「三条殿の苦悩を思いやって心が痛み」は×、解説に記したように、三条殿を心配しているわけではない。④も同様に「三条殿の乱れる心のうちを思うと」が×。⑤は「三条殿の生活が嫌になり、別れたいと望んでいる」は明らかに×、「世間の目も気になって」も記されていない。

問５　27

正解　①

難易度　★★★★★

所要時間　３分

設問パターン　会話の内容説明

傾向と対策

分析すべきことが多く、限られた時間の中では極めて難しく感じられることであろう。時間がなければ、直感に頼るのも一つの手だ。センター試験は一問一問の点差が少ない。この問題のような難しい問題を間違えるのと、問２のような極めて簡単な問題を間違えるのでは点数上では差は出ない。センター試験の時間は有限であることを考慮して問題の取捨選択をしてもらいたい。

ただ、冷静に読み解けばそこまで難しい問題ではないので、文章の省略を考えながら、じっくり考えていこう。複数の文に関する問題ならとにかく消去法で、間違っている部分が出てきたらすぐに消して素早く解こう!!

思考方法

①は一見したところ適当に思える。②はＡの説明にある「子育ての苦労ぐらいで実家に帰る無責任さを非難している」がおかしい。「これまでにない夫の振る舞いに衝撃を受けた三条殿が～実家へ帰る場面から始まる」と前書きにあるとおり、三条殿が実家に帰ったのは大将殿の浮気が理由のはずだ。③はＡとＢの発言者が逆になっている。Ａの直前には大将殿が三条殿に会うまでの過程が書かれているが、その最後に「例の渡り給ふ方は、御達のみさぶらふ。若君たちぞ乳母に添ひておはしける。」という状況を大将殿は目にする。Ａの「かかる人を、ここかしこに落とし置き給ひて」とあるのはここを

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

指すので、これは明らかに大将殿の発言である。④はCの説明「私の名誉も考えてほしいと頼んでいる。」が不適当だろう。「誰が名か惜しき」の解釈は、「誰の名が惜しいだろうか→惜しいのはあなた（＝三条殿）の名誉だ」となるはず。問題となっているのは私の名誉ではない。⑤はBの「あなたのお気持ちがもはやもとに戻るはずもなく」が明らかに不適当。「戻るはずもなく」は「直るべきにもあらぬ」の解釈だろうが、主語が「あなた（＝大将殿）のお気持ち」ならばここに尊敬表現が用いられているはずだ。

解説

まずAから見ていく。《思考方法》に記したように、直前の段落は大将殿の行動。だからAも大将殿のことばである可能性が高いと考えながら読み進める。解釈自体は《現代語訳》に書いてあるので省略するが、しばらくあとに「寝殿の御まじらひ」という単語が現れる。寝殿にいるのは三条殿のはずであり、彼女に敬語が用いられていることから、これは大将殿の言葉ということが確定する。よって③は ×。①、②のAの部分の解釈の違いは「三条殿が実家に帰った理由」にあり、①「少しの出来心くらいで実家に帰る」、②「子育ての苦労くらいで実家に帰る」となっている。三条殿が実家に帰ったのは大将殿が浮気をしたからなので、②は ×。①のAについての記述は正しい。

Bの発言内容も《現代語訳》を参照してほしい。①、④には根拠になりそうな明らかな誤りはない。⑤はBの「直るべきにもあらぬを」を「（大将殿の）お気持ちがもはやもとに戻るはずもなく」と解釈しているのが誤り。「直るべきにもあらぬ」のは「三条殿の性格」であり、もし「大将殿の気持ち」について述べているのであれば、ここには尊敬表現が伴うはずである。

Cは大将殿の言葉である。《思考方法》にある通り、④「理解を示して機嫌をとりつつ」が本文に合致しないので、④は ×。よって正解は①。

問6　28

正解　④

難易度　★★★★★

所要時間　3分

設問パターン　文章の内容説明

傾向と対策

ここ数年は表現と内容に関する問題であったが、２０１４年度は表現の要素がなかった。その分、本文との合致に焦点を絞ることができたので、該当部分を素早く見つけることができたらやさしい問題であった。しかし、本文自体のレベルが高いので問題のレベルとしては十分に高かったと考えられる。気を引き締めて解いていこう。

ちなみにこの問題に関しては、正攻法しかないと考えられるので《思考方法》の枠を設けていない。

解説

①「おとどと語ることで、やっと『少しもの思ひ晴るけどころ』を見つけ」がおかしい。3行目に書いてあるように「女御の里におはするほどなどに対面し給うて、少しもの思ひ晴るけどころに思され」たのであり、おとどではなく女御である。

②「おとどは三条殿のことを心配して、大将殿に『消息たびたび聞こえ』た」がおかしい。8行目の「消息たびたび聞こえて、迎えに奉り給へど」の主語は大将殿であり、おとどではない。

③ とても惜しい。③を選んで間違えてしまった諸君も多いのではないだろうか。確かに時系列には一つも間違えがない。しかし「驚い」たあとに「すぐさま大殿へ迎えに行った」のは間違えである。5行目あたりを参照

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

すると、大将殿は「聞き給ひて」、「驚かれ給う」たあと、一回自宅に帰っている。その後、三条殿の実家へ「暮らしてみづから参り給」ったのである。よって「すぐさま」とは言えない。ゆえに間違いだといえる。

④ 26行目の「『すがすがしき御心にて、この君たちをさへや、知らぬ所にて率て渡し給はん』と、あやふし」と対応している。

⑤ 27行目のあたりと対応しているが、「『母君の御教へにな叶ひ給うそ』などと、せめて教訓を言い聞かせることで、父の役割を果たそうとした」はおかしい。「母君の御教へにな叶ひ給そ」は、その前の「いざ、給へかし」からも読み取れるように、大将殿が姫君を三条殿の実家から、大将殿夫妻の自宅に連れて行こうと説得する言葉である。よって誤り。以上により、解答は④。

（制作：松田朋佳）

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

2014年度　センター試験　本試験　国語

第4問　漢文

難易度	所要時間	出典	傾向と対策
★★★★★	約15分	『陸文定公集』 出典も作者も知らなくてよい。ちなみに、作者は明代の官僚、陸樹声。農家に生まれて勉学に励み、科挙に首席合格という努力の人だ。しかし、頑固な性格でしばしば辞職し、実際に役職についていた年数は少なかったという。「評価され、尊重されるものが幸せだとは限らない」という本文を、負け惜しみととるか深い言葉ととるかは君次第だ。	本文の分量は200字程度で、標準的な長さ。本文の二割弱が(注)で説明されている。この文章は「序論・本論・結論」の三つの部分からなり、現代文でよく見かける典型的な論説文の形式である。 解答の順番はほぼ本文に沿うが、問6だけ最後に考えて、**問1(1)→問2→問4→問3→問1(2)→問5→問7→問6**とするのが最も自然で効率も良い。 2014年度は空所補充や段落分けなどの論理展開を問う設問や、差のつきやすい白文書き下しが多く出題され、大部分の受験生が膝を屈した年である。問1の語句問題さえも比較的難しかった。

傾向と対策

2014年度の漢文を難なく戦い抜けた者こそ、語彙・文法知識・古典常識に明るく、そのうえ論理展開を追う読解力をも備えた古典マスターだ！

注意が必要な問題をいくつか取り上げ、対策を併記するので今後の学習に生かしてほしい。

問1の漢字の意味を問う設問では、語彙と内容理解（その字が使われている文脈に対する理解）がモノをいう。しかし、(1)はすべての選択肢に「習」という字が使われており、語彙だけではとても判断しにくい問題だ。2014年度の問1は語彙の豊富さよりも本文の内容を理解する力が正答を得るためのカギとなった。

問7の白文書き下し問題は、「白文の一字一字の意味を文脈と文法知識に照らして推測し、自分で書き下す」という漢文特有のスキルを求める。ここでいう文脈とは、一つには本文の論理展開であり、また一つには古典常識のことでもある。例えば老荘思想、無為自然といった古典常識を知らずして問7を正解することは困難である。文脈を理解することは、点数アップに加え、文章をより深く理解することにもつながるのだ。それゆえ、主要な思想や詩人、科挙制度や主な王朝の順番については、古典または漢文の教科書に載っているような最低限の知識だけでも頭に入れておいてほしい。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

本文解説

第1部　江南の筍

赤は重要語句　青は覚えておくと良い語句

書き下し文

江南に竹多し。其の人筍を食らふを習ひとす。春の時に方たる毎に、苞甲土より出で、頭角繭栗、率ね以て採食に供す。或いは蒸瀹して以て湯と為し、茹介茶荈以て饋に充つ。

現代語訳

長江下流域には竹が多い。その地方の人は筍を食べるのを習慣にしている。毎年春になると、筍の外皮が地面から顔を出し、仔牛の新しい角や繭や栗の実のような小さな形の若芽が出ると、大体は採って食用に供する（食用にする）。それか（筍は）蒸したり煮たりして（そして）汁物にしたり、穂先の柔らかい皮とお茶を（食材として）食卓に並べたりする。

文法解説

２文目の「其ノ」人は間違いなく「江南の」人だ。

「習」はいわゆる設問の都合で送り仮名が省かれており読み方は不明だが、漢文の基本的語順「ＳＶＯ」から動詞だということはわかる。「習ヒトス」と正しく読み下せる必要はない。

「方タル」「率ネ」といった見慣れない読み方をする字のうち、（注）がなくルビだけが振ってあるものは基本的にルビどおりの意味としてよい。

苞甲、頭角繭栗、蒸瀹、茹介茶荈といった熟語はすべて（注）が付いている＝訳が不要。こうしてみると、注釈だらけの文章もある意味では楽（ただしＰＣでこれらを漢字変換しようとするとげんなりする。特に「荈」が出てこない…）。

本文中の「以」をまとめて解説する。最初の「蒸瀹シテ以テ」は「Ａ以」で「Ａして（そして）」と訳する形。この場合「以」は順接で、置き字の「而」のように使われている。

そのうしろの「以」は順番に①「Ｂ（茹介茶荈）以Ａ（饋ニ充ツ）」、②「Ａ（目スルニ）以Ｂ（清嗜ヲ）」という構造である。Ａは「結果的に行われる動作」、Ｂは「Ａの手段・理由など」で、右の二パターンのほか③「以ＢＡ」の形もある。

①は③の「以Ｂ」が倒置されたもので、②ではＡがＢより先にきている。いずれにせよ、「以」のあるところには大体ある動作とその手段・目的などが出てくると思っていい。

最後の文の「以Ａ（無用ヲ）為Ｂ（用ト）」は、「ＡをＢと思う」という「以＋為」コンビ特有の形だ。これについては、ぜひ２０１５年度漢文の《文法説明》「以為Ｂ」を参照してほしい。

第2部　甘い筍と苦い筍

書き下し文

事を好む者目するに清嗜を以てし方に長ずるを斬らず。故に園林豊美、複垣重扃にして、主人居嘗愛護すと雖も、其の之を食らふに甘しとするに及ぶや、剪伐して顧みず。独り其の味苦くして食品に入らざる者のみ、筍常に全し。毎に渓谷巌陸の間に当たりて、地に散漫して収められざる者は、必ず苦きに棄てらるる者なり。而るに甘き者は之を取りて或いは其の類を尽くすに至る。然らば甘き者は自ら戕ふに近し。而るに苦き者は棄てらると雖も、

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

猶ほ剪伐を免るるがごとし。

現代語訳

筍好きの人（＝事を好む者、好事家）は（筍の）清雅な風味を好むために（食べ頃の筍に）目を配り、いままさに長くなろうとしている（＝長くなりかかった）ものは採らない。それゆえ庭園が豊かで美しく、幾重にも垣根や門扉をしつらえてあり、持ち主が普段（竹を）愛し大事にしていても、筍好きの人が庭園の筍（＝之）を食べ頃と見るやいなや、（筍を）切り取ってしまってかえりみない。その味が苦くて食用にならなかった筍（＝者）だけが、筍はいつも（切り取られず）無傷だ。常に谷間や山中で、地面に散らばっていて、収穫されない竹（＝者）は、きっと苦いために放置された筍（＝者）（が生長したもの）だろう。だが甘い筍（＝者）は（筍好きの人が）この筍を採ってひょっとするとその種類を採り尽くすところまでいく。ならば甘い筍（＝者）は自ら（自分を）傷つけているも同然だ。そして苦い筍（＝者）は捨てられるとはいえ、ちょうど切り取られずに済んでいるようなものだ。

文法解説

1文目の「以」は理由を表し、「清嗜であることを理由に目す（＝好む）」となる。

「方ニ」は「将ニ」と同じ意味。「方ニ～す」と再読して「ちょうど～しようとしている」という意味を表すことがある。

「園林豊美、複垣重扃」「居嘗」には（注）があるが、前者は字面からも「庭が豪華」だとわかる。

「雖レA＝Aとはいえ」は基本語彙。覚えておこう。

「食ラフニ甘シ」はあとの《通読》にも書いたような読み方で「食べ頃」と解釈できると良い。

「者」は現代日本語では人のみを指すが、漢文では人間以外を指すこともあるので注意したい。

「独A～＝Aだけが～」は初歩。必ず覚えよう。

「全し」はルビがなくても読めると良い。

「毎」の用法は「毎レA」または「毎」で、意味は訓読みどおり。

「必ズ」は現代語的な「絶対に」の意味にとらわれず「きっと」という推量の意味も覚える。いまでも「必ずAしてみせる」と言いたいときに「きっとAしてみせる」とも言う。「必ず」「きっと」はこのようにダブる語彙なのだ。

「苦きに～」の「に」は格助詞で、原因・理由を表す。

「而ルニ」は5文目では逆接、7文目では順接の接続詞だ。詳しい解説は2015年度の《参考》を参照。

「猶レA＝ちょうどAのようだ」は基本語彙。覚えておこう。

第3部　荘子の「無用の用」

書き下し文

夫れ物類は甘きを尚び、苦き者は全きを得たり。世に貴は取られ賤は棄てられざるは莫し。然れども亦た取らるる者の幸ひならずして、偶棄てらるる者に幸ひなるを知る。豈に荘子の所謂無用を以て用と為す者の比ひなるか。

現代語訳

そもそも物は甘いのを尊重し、苦いものは（切り取られずに）無傷でいられる。世間では貴いものが選び取られないことはなく、劣ったものが捨てられないことはない。しかしまた選ばれたものが不幸で、棄てられたものが思いがけず幸福なことも見聞する（＝ある）。これこそ荘子の説く「無用の用（＝一見無用なものが、逆に真に有用なものである）」の類ではなかろうか。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

文法解説

「夫レ～」はあとの問6の解説でも述べるが「そもそも～」と議論を始める接続詞。「夫」という字はほかに、名詞では現代語の「おっと」や「丈夫＝一人前の男子」の「おとこ」という意味、古文でいう終助詞「かな（＝夫）」の意味もある。

「不莫」は「～ざルハ莫シ」と読む、いわゆる二重否定というやつである。意味は「～でないものはない」。一瞬訳がわからなくなるが、要は「～である」ということを強調した言い回しなのだ。これも基本文法なので必ず覚えておきたい。

「豈」は反語を表す字として有名だが、ここでは推測の意で用いられている。

最後の文に出てくる荘子、無用の用について聞き覚えはあっただろうか？「老荘思想（道家と呼ばれる老子・荘子の思想を根幹とする哲学）」において、「無用の用（無価値なものこそが重要な役割を果たすという考え）」は「無為自然（人為＝儒家の説く仁・義を否定し天命に任せる）」と並ぶキーワード。ここに書いたカッコ内の概要を丸暗記するのもいいが、ある思想を理解するにはその思想家が語った内容に少し触れてみて自分なりに咀嚼するのもいい。個人的な話だが、私（解説者）は『マンガ　老荘の思想』『マンガ　孫子・韓非子の思想』（いずれも、蔡志忠・著、野末陳平・監修、和田武司・訳、講談社＋α文庫）が好きで、この本で道家・兵家・法家についてはなんとなくイメージをつかんでいたつもり。諸子百家の思想家たちは権力者に支持してもらうためにしばしば諸国を遊説し、動物や架空の国の人が登場する色々な例え話を使って自説を紹介している。「豈～」は「どうして～だろうか、いや～でない」という反語が頻繁に問われるが、今回の場合は「豈～＝～ではなかろうか」という推量を含んだ疑問である。こんな句形はまずセンター試験で問われないので、やはり設問解説に述べたとおり、できるだけ白文解釈以外の文脈、背景知識で正答をあぶり出すべし。

要約

第1部（～2行目「充饋。」㋐まで）江南の筍

竹の多い長江下流域には、春採れる筍を食べる習慣があった。（28字）

第2部（2行目「好事」～7行目「於剪伐。」㋓まで）甘い筍と苦い筍

甘い筍は食べ頃になると筍好きがすぐ切り取ってしまうので、苦い筍だけが放置され生をまっとうする。（47字）

第3部（7行目「夫物類」～）荘子の「無用の用」

選ばれたものが不幸で、捨てられたものが幸福なこともある。これは荘子の説く「無用の用」に通じるものであろう。（53字、計128字）

設問解説

問1　29・30

正解　(1)④　(2)③

難易度　★★★★☆

所要時間　2分

設問パターン　傍線部の漢字の意味

(1)

思考方法

其の（＝江南の）人が筍を蒸瀹（＝煮たり蒸したり）して食べていたらしい。食文化＝習慣だから②か④、悪い習慣とは書いてないから②弊習は×、

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

正解は④。

解説

漢字の意味＆文脈（漢字の「文中での」意味）の二刀流で考えよう。

漢字の「習」の意味から攻めようとすると、なんと全選択肢に「習」が使われている。純粋に文脈から正解を選ぶしかない。とりあえず選択肢はすべて動詞なので、傍線部(1)は動詞と確定。さらに選択肢は①学習、③習得、⑤習練するという「学ぶ・覚える」タイプと②弊習、④習慣としているという「習慣」タイプの2タイプに分かれる。傍線部(1)がどちらのタイプなのか考えよう。

本文1文目は「江南には竹が多い」。2文目が「江南の人は筍を食べるのを(1)習していた」。3、4文目は江南の人の筍の旬と料理法。江南の人が筍を食べることを「習う」記述がなく、3文目「毎年春〜大抵（率ね）採って食べていた＝筍を食べる習慣があった」とあるので、傍線部(1)は「習慣」タイプであるとわかる。「学ぶ・覚える」タイプの①、③、⑤を消去。そして、筍を食べることが悪い習慣＝弊習であるという記述はないので②を消去。

(2)

思考方法

高尚の「尚」だから良い感じの意味だろう。甘い筍を好む人が登場するから、物類は甘いのを「好む」みたいな文か？　①「（甘いのを）誇示する」は本文に出てこなかったし、④「（甘いのを）保全する」だと甘い筍が大事にされて切られないことになるから両方×。②と⑤は筍ＬＯＶＥすぎて引くわ。正解は③。

解説

受験生とはいえ、漢字の「尚」の意味を即答できる人は「習」より少ない。熟語例は「高尚（＝上品でハイレベル）」「尚武（しょうぶ）（＝武を重んじるさま）」。特に「尚武」が浮かべば③、⑤にアタリをつけられる。

文脈は、《要旨》を見ると、第1部 江南の筍（江南多〜以充饋。）→第2部 甘い筍は切られ、苦い筍は切られない（好事者〜於剪伐）からの、「そもそも物類は甘いのを(2)尚、苦いのは生をまっとうできる」（夫物類(2)尚レ甘、而苦者得レ全）。この文では「そもそも物類は」と話題を筍から物類（＝万物）に広げて語り始める。ゆえに「甘いものは好まれ（て切られ）、苦いものは（嫌われて）切られない」筍の話が物類に適用され、少なくとも①誇示する、が甘いものに価値を認め手に入れたがる「尚」のイメージから外れていることがわかる。「甘いんだぞ！　どうだすごいだろ！」とは誰も言っていない。①を消去。また④は甘い筍が切られてしまっている文脈に合わないので消去。残る②・③・⑤のうち②・⑤はどちらも「甘いもの欲しい！」というよりは精神的な「尊い…（涙）」という好み方なので消去。

問2　31

正解　⑤

難易度　★★★★★

所要時間　2分

設問パターン　白文の書き下し

思考方法

真剣に解くか諦めるか。文脈をフル活用して解くために最後に回すのも手だ。本文読解では重要でないのでこの問題は捨ててしまっても構わない。白文は句形と文脈に頼るべし。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

解説

傍線部Ａには読み方が一つに決まる句形、再読文字がない。この場合は、漢字の品詞（動詞、名詞…）と文法上の役割（主語、述語、目的語…）に注目するのだが、かなり難しいので時間を割きすぎないほうが賢明。「不靳」の読みはすべて「靳（と）らず」。共通する部分は無視して選択肢を比較すると、

「目」　名詞「目」（④）／動詞「目す（＝見る・見て思う）」（④以外）

「方長」「長きに方（なら）ぶ」（①、④）／「方（まさ）に長ず」（②、③、⑤）

「以」「Ａ以て」（①、②）／「Ａを以て」（③～⑤）

と分かれる。この違いに注意。

文脈は「好事者目以清嗜不靳方長。だからゴージャスな庭で、主人がいつも大事にしていても、その庭の筍を食べ頃だと見るやいなや、切り取ってしまってかえりみない（故雖園林豊美、複垣重扃、主人居嘗愛護、及其甘於食之也、剪伐不顧）」。つまり「傍線部Ａ。だから（好事者＝筍好きの人は）筍に飛びつく」。傍線部Ａの次の文の省略された主語は直前にある名詞の「好事者」。この関係は、ぜひ読めてほしい。

傍線部Ａは、筍好きの人が筍に飛びつく理由なのだ。ここで本文の注６より、「清嗜＝清雅なものへの嗜好」であると思い出そう。傍線部Ａを「好事者＝筍好きの人は、清嗜（清雅なもの＝風味サッパリ美味しい筍が好き）だから」と読めれば、「以」の用法が理由・根拠であると予測しつつ選択肢を読める。

唯一「目」を名詞扱いして、一際目立つ④から見ていこう。「目は清雅なものへの嗜好を以てし」とあり、目が何かするらしいがそれはおかしい。「長きに方（なら）ぶ（生長して長い竹に並んだ筍？）を靳（と）ら」ないのは事を好む者なので、主語は目ではなさそう。④は消去。ほかの選択肢を順に見ていこう。

①の「事を好む者以て清嗜なるを目し」は「以（テ）ＡＢ（ヲス）」＝「Ａによって（手段など）／Ａなので（理由など）Ｂする」のＡを強調するために倒置し、「以て」の前に置かれた形だと考えられる。文例：「吾道一以貫之（吾が道一以て之を貫く＝我が道は一つのことで貫かれている）※この文では『一』がＡに、『貫之』がＢにあたる」（『論語』里仁）。しかし、この説明では「目」が「以」の前に置かれていることと矛盾してしまう。

しかも、「清嗜なるを目し」た理由や手段、材料（前置詞 with, by, for に続きそうなもの）は「事を好む者」になり、この文にはもう主語になれる名詞はない。主語が既出の名詞で省略されているか、と探すと候補は「江南人」だけだ。まさか筍だのお茶だのが主語ではあるまい。「（江南人は）事を好む者なので、となって意味が通るんじゃないか」と思った人、その推測力は大事にすべきだが惜しい。なぜならその場合書き下し文は「（江南人は）事を好む者なるを以て＝事を好む者であることを理由に」となるはずだからだ。単なる「事を好む者」という体言では「清嗜なるを目」する理由にならない。

②の「目して以て」は「以」の用法のうち接続詞の「Ａして以て」で、無理に訳せば「Ａしてそして」となる。単なる順接、動作の移行なので訳さなくともよい。さて「事を好む者目して以て清嗜なるも方に長ずるを靳（と）らず」は、「事を好む者は見て清嗜である（清雅なものを好む）のだがいままさに長くなりかけているのをとらない」。後半は当然新芽の段階を通り過ぎて生長している筍はもう硬くてマズイので採らないということだろう。これは清雅なもの（↑サッパリ美味しい筍）を好む筍好きとしては当然の行動。「清嗜にして（清雅なものを好むので）いままさに長くなりかけているのを採らない」と順接で続くならまだしも「清嗜なるも」と逆接で続くのはおかしい。

③の「事を好む者清嗜を以て方に長ずるを靳（と）らずと目す」は、「事を好む者は

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

清嗜であることで（手段または理由）いままさに長くなりかけているのを採らないと見なす」と解釈できる。「清嗜である」「Ａと目す（＝Ａと見なす）」の主語が「事を好む者」ということはわかる。問題は「方に長ずるを靳（と）らず」の主語。事を好む者は清嗜である＝清雅なものを好むことで「いままさに長くなりかけているのを採らないな～」と見て思うとして、「いままさに長くなりかけているのを採らない」のは誰なのか。しかし、直後の文で筍を採る主語が「主人」であり事を好む者なので、問題文の「採らない」主語も事を好む者だと考えられるのでおかしい。

⑤の「事を好む者目するに清嗜を以てし方に長ずるを靳（と）らず」は「事を好む者は清嗜であるので（ここでは「以て」は理由の意味）目を配って、方に（いままさに）長くなりかけているものは採らない」と訳すことができる。また、事を好む者が筍に飛びつく理由は「清嗜であるから」と説明されていて、文脈にも合致する。正解は⑤となる。

問3　32

正解　①

難易度　★★★★☆

所要時間　2分

設問パターン　穴埋め問題

思考方法

センター漢文おなじみ穴埋め。空欄が出てきたら何が入るか考えつつ読むべし。「苦」「甘」二つの筍の味を空欄に入れるようだ。それぞれⅠは捨てられる（＝切られない）、Ⅱは取りつくされる（＝切られる）、Ⅲは自らそこなう（＝自ら自分を傷つける＝傷つく＝切られる）、Ⅳは捨てられる（＝切られない）。甘い筍は切られ、苦い筍は切られないからⅠ、Ⅳが「苦」でⅡ、Ⅲが「甘」。①がドンピシャの正解。①～⑤全パターン試したら大変だろうなあ。

解説

問1の⑵と同様第2部 甘い筍は切られ、苦い筍は切られないという文脈の把握がカギ。空欄Ⅰ～Ⅳの部分は傍線部Ｂを除き訓点つき。解けばわかるが、この問題は本文6行目「必棄」～傍線部Ｂ直前「雖棄」まで読めれば解ける。

まず「必ズ於Ⅰ棄テラルル者なり」の「於Ⅰ」は書き下すと「Ⅰに」と読み、「Ⅰのために」と訳す。「Ⅰのために」捨てられた者だ、ということで捨てられる理由は「苦いから」だろう。Ⅰは「苦」。

次に「（而るに）Ⅱ者ハ之ヲ取リテ或イハ其ノ類ヲ尽クスニ至ル」のⅡは、名詞「者（＝筍）」を修飾すると考えられる。之＝Ⅱ者なのでⅡ者は取り尽くされてしまうもの＝「甘い」ものだろう。

「然ラバⅢ者ハ自ラ戕（そこな）フニ近シ」。このⅢも名詞「者」を修飾。直訳は「然らば（＝甘いものは取り尽くされるならば）、Ⅲ者は自分で損なうのに近い」。「戕フ」の意味は訓読みから推測。甘い筍は甘いために自分を損なっている…自ら切られる理由を作っているという文脈から、Ⅲ者＝Ⅱ者＝甘いもの。Ⅲは「甘」。

最後の「而ルニⅣ者ハ棄テラルト雖モ」は、「Ⅳ者は捨てら（れ）る」の時点でⅠ同様Ⅳ者＝苦いもの、と判断できる。

問4　33

正解　⑤

難易度　★★★★☆

所要時間　2分

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

設問パターン　返り点付き文の解釈

思考方法

「猶ホ～ごとシ」の形だ。語順から、「免」は動詞。大雑把に訳すと「剪伐を免れるようなもの」だから、正解は⑤。

解説

「猶レ免二於剪伐一」を一発で「猶ホ剪伐ヲ免カルルガごとシ」と読めれば、重要句形「猶ホ～ごとシ」と漢文の基本的語順「ＳＶＯ」がわかっている。「猶ホ～ごとシ＝ちょうど～のよう・～同然だ」という知識だけでも②「～には変わりない」と⑤「～と同じようなことだ」まで絞れる。②には「切り取られずに済む」という「免」の意味が反映されていないので消去。

問５　34

正解　③

難易度　★★★★★

所要時間　２分

設問パターン　白文の書き下し

思考方法

まず選択肢の書き下し文を軽く読み、明らかにおかしい（文脈、文法に合わない）ものを消去する（この設問だと①と②）。文法知識を覚えろと冒頭で言ったものの、暗記したものよりは（正しく読めてさえいれば）その場の文脈のほうがよほど手掛かりになり、ここでは「貴」「賤」「取」「棄」の四字の関係がそれにあたる。しかしその「正しく読める」ことの前提はやはり最低限の文法知識なわけで…私（解説者）自身は「文法書に出てくる漢字の読み方やイメージはひととおりわかるようにする。その字が本文に出てくるたび、文脈上それらしい意味を選んで当てはめる」程度。量をこなせば重要な字は自然と読み・意味用法とも身について、おかしな使い方には違和感を覚えられるようになる。その違和感で誤答選択肢を嗅ぎ分けるのだ。

解説

①「取るを貴び棄つるを賤しまざる」とあるが、取る行為、捨てる行為の価値については記述がない。しかもうしろの文を読むと「取」「棄」はこの文脈においては受身形で書き下すことがわかる。消去。

②「貴を取り賤を棄て」とあるが、名詞「貴」「賤」が動詞「取り」「棄て」の目的語なら、白文では動詞のあとに続かねばならない（漢文の基本的語順「ＳＶＯ」）、消去。

残った③～⑤の文末が命令形「莫かれ」（②、④）と終止形「莫し」（①、③、⑤）に分かれることに注意。命令対象は書かれていないので「読者」であると見るべきだろう。④は「～莫かれ（＝～するな）」で「貴を取らずに賤を棄てるな」と命令しており（②ならば「～ざること莫かれ（＝～せよ）」で「貴を取り賤を捨てよ」）、（②と）④は「賤を捨てて貴を取れ」と言っている。これは傍線部Ｃからあとの文脈「しかし、また取られるものが不幸で思いがけず捨てられたものが幸福（なことを知る）。豈荘子所謂以無用為用者比耶（〝老荘思想〟の荘子だ！　用、無用ときたら「無用の用」）」に合わない。「無用の用」は「無用＝無価値＝賤」なものを「用＝価値あり＝貴」とする考え方だからだ。よって（②、）④を消去。

最後に③、⑤を見る。⑤の「莫不貴取賤棄」の読みは「貴は取られず賤は棄てらるること莫し」。訳は「貴いものは取られず賤しいものは捨てられるということはない」この後半は「苦い筍（＝賤しいもの）が捨てられる」という文脈に合わない。よって⑤を消去。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

ここまで書いておいて何だが、実は傍線部Cの2、3文字目が二重否定の重要句形「莫レ不」＝「ざル（八）莫シ」だとわかった時点でそれを含む①、③に解答を絞れる（しかも「莫不〈主語〉取」となっているから「不」は「取」だけを否定しているのではない）。文法知識はやはり強い味方だ。ちなみに、どの選択肢にも「也」の読み「や」「なり」がないので、「也」は置き字であり読まれていないとわかる。

問6　35

正解　①

難易度　★★★★★（激難）！

所要時間　2分

設問パターン　意味段落分け

思考方法

接続詞でもあれば文どうしのつながりがわかるんだけど…あるじゃん。㋓の直後の「夫」は「そもそも」だから、㋓以降で何かしら語り始めている。㋓で切ろう！　とすると①か③、つまり㋐か㋑。

㋐以降江南の話はしてないから㋐で切れるかな？

もし㋑で切ると

㋑の前……江南の筍食文化

好事者は甘い筍なら何でも切っちゃう

㋑の後……苦い筍は無事（独其味〜Ⅰ〔苦〕者也。）

甘い筍は切られる（而Ⅱ〔甘〕者〜近自戕。）

苦い筍は無事（而Ⅳ者〜於剪伐。）

㋑の後に「好事者は甘い筍なら何でも切っちゃう＝甘い筍は切られる」があれば「甘い筍の話」と「苦い筍の話」がちょうど二回ずつ繰り返されてバランス良い気がする。やっぱり、㋐で切って正解は①！

解説

センター現代文評論ではおなじみだが漢文では珍しい、本文を展開に沿って分ける問題。まずは本文が、㋓を境に「筍の話」と「一般論＆『無用の用』の話」に分かれることに気づいただろうか？　普通に読んだだけでも㋓以降に筍の話が出てこないことはわかるが、決め手は㋓の直後の「夫」だ。「夫」を読めといわれたら、よほどの漢文好きで、へそ曲がりでなければ「おっと（歴史的仮名遣いなら「をつと」）」と読むだろう。または「夫レ（そ）」と読むかもしれない。ほかの読み方は4ページ上段の「夫レ」の項を参照。さて、「〜」㋓夫物類尚甘苦者得全。」という風に「夫」が文頭にある時、まず疑うべきは語り始めを表す接続詞「夫レ（そ）（＝そもそも、大体〜）」だ。しかも夫婦の話は出てこないので「夫（おっと）」でないのは確実。よって「夫」を境に「そもそも物類は〜」と話題が筍から物類に変わると読むのが自然。これで㋓を含む①、③に絞られた。

あとは㋐で切るか㋑で切るかだけ。接続語のようなわかりやすい切れ目、つなぎ目がなく悩む人が多いと思うが、二択なので㋓までの部分を㋐か㋑で実際に二つに切ってみよう。以下、空欄や傍線部の訳は適宜補う。

「冒頭3文（江南の筍の食習慣＆旬＆料理法）」㋐

筍好きの人は大事な庭の筍でも甘ければ切ってしまう。」㋑

苦くて食べられない筍だけが切られない。山や谷に散らばる竹は苦い筍が放置され生長したものだろう。甘い筍は取り尽くされる。なら甘い筍は自分で自分を傷つけているようなものだ。だが苦い筍は捨てられるとはいえ切られずに済んでいるようなものなのだ。」㋓

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

ここでモノを言うのが漢文独特の「対句」だ。漢詩でもないのに対句？と不思議に思うかもしれないが、正直これに気づくのは難しい。傍線部Ａの次の文から筍の味に着目すると、

甘いと切られる
↕苦ければ放置され、生長する
甘いと取り尽くされるから、自らを傷つけているようなもの
↕苦ければ捨てられるから、切られずに済んだようなもの

と交互に甘い筍と苦い筍の対照的な運命を述べていることがわかる。㋑の前後2文も、甘ければ切る↓苦い筍だけ切られない、という風に㋑を挟んで甘い筍と苦い筍を比較している。この2文を㋑で切るのは不自然。よって③を消去。

問7　36

正解　⑤

難易度　★★★★★

所要時間　2分

設問パターン　白文解釈と作者の主張

解説《思考方法》はここで確認！

選択肢は左のように分解できる。

〝この文は「A」と訓読し、「B」と述べる筆者は、苦い筍（この事例）とCな荘子の考え方の関係をDと述べる〟

A～Dのどれから考えるかは自由だが、『荘子』の「無用の用」さえ知っていれば白文が読めなくてもわかるCから取りかかり、残った選択肢のC以外の部分を頼りに白文解釈と作者の主張を考えるのが賢明だ。問5で書いたように、「無用の用」は「無用＝無価値＝賤」なものを「用＝価値あり＝貴」とする考え方で、これに合うのは④、⑤のみ。『荘子』を知っているだけで二択に持ち込めるのである。ここまで来たら、しめたもの。

④には、「これ（＝苦い筍）がどうして『荘子』のいわゆる『無用ヲ以テ用ヲ為ス』者に比較することができようか」と述べる筆者は「『荘子』の考え方が見失われがちなことを嘆いている」とある。⑤と違って「豈に」の反語の意味を反映している訳だが、苦いという短所ゆえに切られずに済むという幸せな結果を得る苦い筍は、明らかに『荘子』の考え方に沿っている。よって作者の主張部分から④は消去で、正解は⑤。

何と白文を読まずして正解してしまった。（白）文解釈など難しいことはなるべくあと回しにして、文法知識や背景から絞っていくほうが良い。

【参考】「ネギ指」？「タケノコ指」？　／先づ古文に慣れよ

「ネギ指」？「タケノコ指」？

「ネギのような指」「タケノコのような指」と聞いて、あなたはどんな指を思い浮かべるだろうか。固い指？　太い指？

前近代中国の文学作品において「葱（蔥）指」「筍指」は「白くてほっそりした指」を肯定的に評価する言葉で、女性の美しさを描写する表現として用いられることが多い。こう聞いたあなたは「ネギのように細い指ならまだわかるが、タケノコのように細い指というのは意味がわからない」と思ったかもしれない。それもそのはず、「筍指」の「筍」は我々がよく目にする根元が太い孟宗竹の筍ではなく、もっと細長い筍のことを指しているのだ（実際に写真が見たい

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

人はネットや図鑑で探してみてほしい)。

「筍指」の「筍」のように、たとえ名前が同じでも作者が想定したものと我々がイメージするものが異なる場合がある。このような言葉の意味のズレが引き起こされる理由は文化的なものであったり、地理や植生の違いであったり、歴史的なものであったりと実に多様である。言葉の意味のズレやその原因について考えながら作品を読むと、一味違った楽しみ方ができるかもしれない。

先づ古文に慣れよ

現代語ではやや耳慣れない言い回しが出てきてもひるまず漢文を読めるようになるには、やはり古文慣れが重要だ。書き下されてしまえば漢文もただの古文。古文を書いていた時代の日本人が中国語文を書き直さずに母国語に直してしまったがために、我々学生は隣国とはいえ外国の古典文学を自国古典学習の一環として原文のまま読む苦行を強いられているのである。あんな漢字の羅列に心を奪われる者は、世間の漢文学者の数からいっておそらくは学年に一人か二人だろう。

話が逸れたが、要は古文に慣れてほしい。たかだか千年前後昔の日本人の言葉だ、何を言っているかくらいわかるようになるはずだ。現代語でも、難しい言葉はすぐに古典の色彩を帯びるか、さもなくばやたらにカタカナに走る。いま使った「さもなくば」だって、現代語ならば「そうでもなければ」のようになる。古典の文体を敬遠するということは現代語の語彙に背を向けることでもあるのだ。そんなの寂しい。もったいない。というより、いやしくも（今度は漢文調だ）センター試験を受ける受験生ならば、古典全体を捨てるなどという軽挙妄動に走らぬ限り、古文慣れは必要なのである。親しめば必ず得点で応えてくれる、古典は正直な科目だ。私はもっと多くの人に古典を好きになってほしい。結論はこうだ。「将を射んとすれば先づ馬を射よ」、「古典を読まんとすれば先づ古文に慣れよ」。

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

通読

問題集や模擬試験の解説を読んで、偉そうに淡々と説明するだけの解説者に憤った経験はないだろうか。「こんな風に正確に読めたらそりゃ満点取れるよ！　でも試験中は教科書も辞書もないし、時間もないのにムリに決まってる（怒）」と。まったくそのとおり。そこで、限られた知識と時間の中で受験生が漢文と格闘する術をこの《通読》に示した。教科書や辞書が一切使えない状況を想定した「受験生のための通読」なので、ここでは詳細な文法解説などを省く（文法は《本文解説》内の《文法解説》にて詳しく解説している）。自分の読解法に不安があれば、ぜひ本文を通読する上での参考にしてほしい。

通読の読み方

本文は太字にしてある。

（　）[丸カッコ内]…文章を読んでいる解答者の心の声。特に何も考えず読んでいる場合や読めば意味がわかるところは省いてある。

◎…限られた知識をフル活用してなんとか内容を理解する上でのポイント。まずここを読んでほしいし、ここに書いたことは思いつくようにすべきだ。漢字知識は漢検準2級（高校在学）、未来のセンター受験者の平均を想定。

★…漢文が非常に得意な人の心の声。漢文を得点源にしたい人ならこのレベルが目標。上級者になるにつれ反射的に理解できる部分が増え、類推する時間も労力も初級者より少なくて済むので、楽をして速く読める。ここまでくれば漢文はあなたの強力な味方だ。なお、◎と内容が同じ場合は省く。漢字知識は漢検2～準1級、（受験生としてはかなりの）語彙力強者を想定。

読解の基本

そこまでひねった問題は出題されないので、基本的な文法知識と語彙で大体は読める。意味がわからない字が出てきたら、その字を含む熟語を何個か連想して文脈に当てはめてみよう。それでもわからなければ周りの文を見て、似た意味か対比されている字・表現があればそこから類推する。どうしてもわからなければ飛ばそう。心境としては「うんうん、なるほど、それでそれで？」と問いかけてあげるように読むと良い。

それでは、通読開始！

（序文ナシ。作者と出典は陸樹声『陸文定公集』…知らない。まあ読んでみよう）

江南に竹多し。（◎「江南」は注1より、長江下流域。）

其の人筍（たけのこ）を食らふを[1]**習。**（◎「其の人」＝長江の人。問題だ！　学習？　習慣？　★この文にはもう主語「其の人」目的語「筍を食らふを」がそろっているし、語順から考えてもこの「習」は動詞らしい。）

春の時に方（あ）たる毎（ごと）に、（◎「方たる」なんて見慣れないけど、「毎年春になると」って感じ？）

苞甲（はうかふ）土より出で、頭角繭栗（けんりつ）、（◎「苞甲」は注2より、筍の外皮。「頭角繭栗」は注3より、筍の若芽が仔牛の新しい角や繭や栗のような形である様。）

率（おほむ）ね以て（◎「率」は、訓読みどおり読むと「概（おおむ）ね＝大体」か。「以」は、目的語「Aを」が続かないから「以（テ）A（ヲ）＝Aで、Aだから」とは違うみたいだ、

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

保留。★単なる順接の「以て」かな。）

採食に供す。（◎「採」って「食」べるのに「供す」…食用にしたってことか）

或いは蒸瀹して以て湯と為し、（◎注4、蒸したり煮たりしてスープにして）

茹介茶荈以て饋に充つ。（◎注5、穂先の柔らかい皮とお茶を食卓に並べていた）**」**（◎何だこのカギカッコは！　嫌な予感がする！）

A **好事者目以清嗜不靳方長。**（◎好事者＋目＋以＋清嗜〔注6、清雅なものへの嗜好〕＋不＋靳＋方〔再読文字「方」？〕＋長＝？　何じゃこりゃ。★好事者…「好事家＝マニア」に似ている、筍マニアか？　あとは不明、問題を頼りに考えよう）

故に園林豊美、複垣重扃にして、（◎注7、幾重にも垣根や門扉をしつらえた美しい庭園で）

主人居嘗（◎注8、いつも）

愛護すと雖も、（◎動物愛護の「愛護」…愛し大切にしていても、か）

其の之を食らふに甘し（◎「其」が指すのは、「筍が食べ頃！」と思う主体だ。「之」＝筍。「食らふ」の目的語だから当然だ。★「好事者＝筍好き」のこと。「食らふに甘し」、聞き慣れないが「good to read＝読むのに良い」みたいな意味だろう。筍が「食べるのに甘い＝食べ頃」。）

とするに及ぶや、剪伐して顧みず。」（◎「剪」って知らない字だけど「刀」が入っているし伐採の「伐」とセットだし「切る」みたいな意味か。「顧みず＝振り返らない」だから、筍切っちゃってそのまんま、後悔しないみたいな感じか　★剪は剪定の「剪＝切る」）

独り其の（◎＝筍の。其の「味」なので食べ物。）

味苦くして食品に入らざる者のみ、（◎「独り～のみ」があるから、「筍の味が苦くて食べられないものだけ」）

筍常に全し。」（◎「全し」…完全、保全の「全」＝「無傷、五体満足」みたいな意味だろ。「五体満足」だと人間みたいだし訳は「無傷」か）

毎に渓谷巌陸（◎注9、山の中）

の間に当たりて、地に散漫して（◎注意散漫の「散漫」＝「（地面に）散らばってる」）

収められざる者は、（◎収穫の「収」＝「収穫されないものは」）

必ずⅠに棄てらるる者なり。（◎うわ空欄、しかも番号付き。これは中に入る字の組み合わせを答えるパターン）

而るにⅡ者は之を（◎接続語「而」だ。「之」はおそらく直前のⅡ者だ。★接続語「而」は、「マジか」という展開なので逆接かな？）

取りて或いは其の類を尽くすに至る。（◎「類」は「同じ種類のもの」だろう。「類を尽くす」だから「Ⅱ者と同じ種類のものは取り尽くされる」かな）

然らばⅢ者は自ら戕ふに近し。（◎見たことない字。訓読み通りだと「そこなう＝損なう」…甘い筍は切られる＝傷つくから、きっと「損なう＝損傷する＝傷つける」みたいな訳だ。★訓読みもだけど、この字の右側「ほこづくり（戈）」がいかにも傷つけている感じ）

而るに（◎接続語だ。★「せやな」という展開なので順接かな？）

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。

Ⅳ者は棄てらるると雖も、B猶レ免二於剪伐一。㋑」（◎ちょうど剪伐（＝切り取られること）を免れるかのようだ）

夫れ（◎husbandの「夫」じゃないし文頭だから「夫れ＝そもそも」かな）

物類は甘きを(2)尚、（◎問題だ！「高尚、尚武」の「尚」★この文はもう主語「物類」目的語「甘きを」があるし、語順から考えてもこの「尚」は動詞らしい）

苦き者は全きを得たり。」㋺C世莫不貴取賤棄也。（◎問題だ！　世＋莫＋不＋貴（↔賤）＋取（↔棄）＋也。★「莫＋不～＝～ざル八莫シ、～でないものはない」で二重否定だ）

然れども亦（ま）た取らるる者の幸ひならずして、偶（たまたま）棄てらるる者に幸ひなるを知る。（◎前の文と逆接でつながっている。問5を解くヒントになりそう）

D豈荘子所謂以無用為用者比耶。（★この「豈」は反語なのだろうか？〝老荘思想〟の荘子と「無用の用」につなげて文をまとめている。なるほど、深いなあ…）

（制作：竹本有輝、小林美桜）

©Foresight Inc.
本サービス・コンテンツの知的財産権その他一切の権利は
株式会社フォーサイトに帰属し、無断転載・引用を禁止します。